

# 年報

—平成12年度—

2001

大磯町郷土資料館

— 目 次 —

[事業報告]

庶務 ..... 4

- ・組織および職員
- ・運営委員会
- ・予算
- ・維持管理
- ・入館者

学芸 ..... 6

- ・企画展
- ・学級・講座
- ・刊行物
- ・調査・研究・普及
- ・博物館実習
- ・博物館資料の収集と利用

文化財保護 ..... 24

- ・文化財専門委員会
- ・文化財保護
- ・埋蔵文化財

町史編さん ..... 29

- ・組織
- ・町史編さん委員会
- ・町史編集委員会
- ・部会
- ・刊行物

[研究報告]

盆の行事 — 盆棚・砂盛り — ..... 32

摘み草の会

鶴飼レイ子 北村和江 熊沢聖子  
後藤ひろ子 滝沢すみ子 中村ふじ  
望月定子 渡辺信子

資料紹介 『大磯旅行記』

佐川和裕 加藤廣美 ..... 1

# 事業報告

# 庶務

## ■組織および職員

教育長	教育次長	生涯学習課	郷土資料館(班)
巖島格造	柏木功男	課長兼館長 山田満紀	主幹 小清水努
			副主幹 小島昇
			主査/学芸員 佐川和裕
			主任主事/学芸員 國見徹
			主任主事/学芸員 北水慶一

## ■運営委員会

### (委員の構成)

- ・委員長 石田和夫(学識経験者)
- ・副委員長 廣瀬利郎(社会教育委員)
- ・委員 稲葉和也(文化財専門委員)
- ・ 菅生晃(学校長)
- ・ 近藤英夫(町史編集委員)

### (委員会の開催)

- ・平成12年9月1日/平成11年度年報(案)、平成12年度事業計画ならびに進捗状況
- ・平成13年2月28日/平成12年度事業の進捗状況、平成13年度事業概要

## ■予算

### (当初予算の推移)

単位：円

年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
金額	63,697,000	62,040,000	57,439,000	57,666,000	69,757,000

- 郷土資料館費 69,757,000円    文化財関係費 7,818,000円  
町史編さん費 17,108,000円    緊急雇用対策事業 6,597,000円    ■計 101,280,000円

### (平成10年度決算)

単位：円

事業	運営委員会	運営事務	維持管理	学芸活動	企画展	教育普及
金額	43,800	4,036,638	15,640,326	2,491,083	1,005,844	125,576
事業	文化財委員会	文化財調査保存	町史編さん	緊急雇用対策	計	
金額	150,400	8,045,250	16,400,456	6,597,000	54,536,373	

職員給与(5人分) 45,868,826円    ■歳出合計 100,405,199円

## ■維持管理

### (委託業務)

- ・ 総合清掃委託/㈱フジワールド
- ・ 浄化槽保守点検委託/湘南興業㈱
- ・ 警備委託/㈱全日警横浜支社
- ・ 自動ドア保守点検委託/㈱ナプロ
- ・ 煙蒸業務委託/特許理化興業㈱
- ・ 敷地管理委託/㈱神奈川県公園協会
- ・ 空調設備保守点検委託/高砂熱学工業㈱横浜支店
- ・ 昇降機保守点検委託/タイコー㈱横浜営業所
- ・ 自家用電気工作物保守点検委託/小島電気管理事務所
- ・ 消防用設備保守点検委託/㈱ヒラボウ
- ・ 動物骨格標本クリーニング委託/㈱尼ヶ崎科学標本社
- ・ 祭船解体組立(展示)委託/大磯御船祭保存会

### (施設の修繕)

- ・電話機修理/東陽工業㈱ 神奈川支店
- ・高圧交流気中負荷開閉器交換/榎望月電気工事
- ・モニターテレビ・レーザーディスク・ガーデン照明器具修理/湘南家電
- ・誘導灯および排煙窓修繕/相日防災㈱ 小田原支店
- ・中央監視装置CRT交換/山武ビルシステム㈱ 横浜支店

## ■入館者

### (入館者の推移)

単位：人・日

	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	累計(昭和63年～)
入館者数	31,218	28,857	28,415	28,252	25,395	438,750
1日平均/開館日数	111/281	103/278	100/282	101/279	91/277	123/3,545

### (月別入館者数)

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	2,511	2,717	1,374	1,275	1,735	1,750	3,246	3,886	1,556	1,246	1,575	2,524	25,395
1日平均	104	118	65	55	66	76	135	161	74	59	71	100	91

### (見学・視察)

館対応のみ 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	1	1	0	0	1	2	2	2	1	1	2	13

### (研修室の利用)

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	11	11	14	12	7	8	8	7	10	9	9	8	114

## ■大磯町新しいまちづくりプロジェクト「文化財保護と郷土資料館運営検討会議」

大磯町第3次総合計画の推進にあたり個別問題ごとにプロジェクトチームを立ち上げて検討することを目的とし、教育・文化向上に資するため文化財保護ならびに郷土資料館運営に関する課題を検討した。

### (チーム構成)

- ・チームリーダー/柏木功男(教育次長)
- ・委員/山田満紀(生涯学習課長)・小泉和彦(町民公募)・外川敏子(町民公募)  
寺寄弘康(神奈川県立歴史博物館主任学芸員)・近藤英夫(東海大学文学部教授)  
鈴木一男(生涯学習スポーツ班)・佐川和裕(郷土資料館)
- ・事務局/小清水努(郷土資料館)・仲手川登三男(生涯学習スポーツ班)
- ・書記/北水慶一(郷土資料館)

### (検討会議の開催)

- ・第1回 5月18日 資料館の建設経過と運営課題、文化財保護の現状と課題
- ・第2回 6月28日 常設展示室および収蔵庫のありかた
- ・第3回 7月21日 展示替えおよび収蔵庫について、町並み博物館構想について
- ・第4回 8月29日 素案の検討
- ・第5回 10月4日 報告書のまとめ
- ・第6回 10月25日 報告書について

## 学 芸

### ■企画展

#### 三二展示「収蔵動物剥製展」

- 期 間 平成12年4月23日(日)～6月14日(休)
- 開場日数 42日間
- 会 場 企画展示室
- 出品点数 約100点
- 料 金 無 料
- 入場者数 4,212人



(趣 旨) 当館では、平成12年3月現在で哺乳類剥製15点、鳥類剥製を103点収蔵している。収蔵している剥製は、既に特別展「相模湾の動物」、「動物の生活と体のつくり」や企画展「丘陵の動物」などでたびたび出展している。過去に行った展示においては、各テーマの一部として形態、生態を紹介するといった展示の仕方を行ってきたが、このたびの展示では、“剥製とはどういった資料か”をテーマに動物剥製がもつ資料的意味合い、動物剥製から得られる情報について紹介する機会とした。

(内 容) 当館の剥製は、寄贈、移管として受け入れたものも若干あるが、多くのものは町民の方から野生生物へい死体発見の連絡をいただき、郷土資料館で回収または持ち込みで博物館資料として受け入れ、剥製作成業者に委託し作成したものである。開館当初は年10体程度作成していたが、ここ数年は3体程度と減少している。へい死体発見の連絡があった場合は現在でも受け入れており、今後も1年当たりの作成数は少ないが収蔵点数を増やす予定としている。

本展では、収蔵資料のうち56種89点の鳥類標本、9種12点の哺乳類標本を展示した。「鳥類剥製」「哺乳類剥製」というテーマで1スペースに鳥類、1スペースに哺乳類を一同に介する展示方法をとったが、展示完成後、種の形態を比較するにはよい展示であるように思えた。特にスズメ目の頭部や体の模様などを比較するには適していた。また、展示の中で参考資料としてアカウミガメの骨格標本、町内海岸にて回収したアカウミガメの卵殻も展示したが、本展の展示資料の中ではアカウミガメの卵殻が最も多くの反響が得られた。

(担 当) 北 水

#### 「身近な動物・植物」

- 期 間 平成12年7月16日(日)～9月3日(日)
- 開場日数 40日間
- 会 場 企画展示室
- 出品点数 約1,000点
- 料 金 無 料
- 入場者数 2,565人



(趣 旨) 小中学校の夏休み期間ということもあり、自由研究のヒントとなるような展示ということで企画を進めた。町内を散策する中でよく見かける植物や昆虫、鳥に注目し、身近な動植物を知り、それぞれの生物の形態を観察できる場を目指した。本展では、特に今まで展示機会の少なかった昆虫標本や陸産貝類に重点を置いた。

(内 容) 「野や山の生き物」「海の生き物」と大別し、展示を行った。「野や山の生き物」では、四季それぞれに見られる植物の写真パネル、鳥類剥製、チョウ類、トンボ類の昆虫標本、セミの抜け殻、ミスジマイマイ等の陸産貝類を展示し、「海の生き物」では海浜植物の写真、ハマボウフウの標本、大磯町照ヶ

崎にて採集の貝類標本、イワガニの標本、漂着物を展示した。本展は、生物標本が中心で、昆虫類、貝類の標本等小さい資料が主であった。必然的に出展数が多くなり、資料の配置に時間と労力がかかったが、時間、労力がかかったわりには今ひとつ見栄えがしない展示であった。生物資料の展示の場合、ガラスケース内で上から覗いて見るという展示形態をとることが多いが、当館においては主だった部分が天井までガラスが張ってあり、横から見るスタイルとなる。展示室に合わせた見せ方として、垂直方向の資料配置を意識し、大きめの生態写真や文字解説を増やすなどの変化を持たせることが必要ではなかったかと考える。

展示開催の成果として、展示期間中にセミの抜け殻、大磯町照ヶ崎で採集した貝殻等のレファレンスが数件入り、後に自由研究に活用したとの報告もあったので、本来の目的である夏休みの自由研究のテーマとしての活用についていくらかは達成できたのではないかと考えている。

(担当) 北 水

### 「職人の道具—西相模の手仕事—」

- 期 間 平成12年10月22日(日)～11月26日(日)
- 開場日数 32日間
- 会 場 企画展示室
- 資料点数 約750点
- 料 金 無 料
- 入場者数 4,531人



(趣 旨) 近年、私たちの生活様式は大きく変容した。技術革新によって、あらゆる面で利便は図られたが、身の回りの品々は大量生産によって画一化され、長年受け継がれてきた職人の手仕事は次第に消えつつある。また、職人の手足として使われた道具も活躍の場が失われようとしている。

今回の展示では、職人の愛用した道具を見ることで、私たちの生活とかかわりの深い品々が、熟練された職人の技によって生み出されてきた過程を考えようとした。当館収蔵資料の他、神奈川県有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」のなかから西相模（神奈川県西部）地域を対象とした職人の道具を借用し展示をした。

また、今回の展示は、県内3館（厚木市郷土資料館・相模原市立博物館・大磯町郷土資料館）が、神奈川県立歴史博物館のご協力を得て、時期を違えて同一テーマで展示を開催した。各館の収蔵資料とともに、それぞれの地域の実情にあわせて別々の県有民俗文化財を借用して公開したが、伊勢原市大山の木地師道具（独楽作り道具）については、県内を代表する職種のひとつということで、各館を巡回展示することとした。このように、博物館相互の実質的な交流を深めることも本企画の大きな目的のひとつとなっている。なお、本展示は神奈川県立歴史博物館との共催事業として開催した。

(内 容) 当館収蔵資料として、大磯町で活躍していた大工・桶職人・庭師の道具のほか、大工が建前時に立てるノサなどの儀礼用具や、畳職人の家屋に残されていた大量の守札を配し、職人の技術だけでなく生活や信仰のあり方を含めて展望できるような構成に努めた。また、平成11年2月に神奈川県有形民俗文化財の指定を受けている「神奈川の職人の道具コレクション」（17種・1,982点）からは、木地師（伊勢原市）・物指職人（松田町）・傘職人（秦野市）・船大工（真鶴町）・漆掻（南足柄市）・箕職人（山北町）の道具など、いずれもそれぞれの地域に深く根付いてきた職種として500点余りを借用した。企画展示室は面積こそ狭いが、展示総点数は700点余りに及び、職人の使用する道具の多様性を知る上では大きな力となったようである。また、職人の道具が文化財としての価値を持つことが再認識され、展示をご覧になった方々から資料が寄贈されるなどの副次的な効果をもたらした。

しかし、一方でいくつかの課題も明かになった。一般観覧者にとって馴染みの薄い職人の道具は、名称や使用方法が難解なものが多いため、製作工程に沿って展示を構成するなどの配慮が必要であるが、限られた展示スペースでは意を尽くせない部分も少なくなかった。また、展示ケースのない露出部分が

多かったことから、道具の刃先の養生や盗難防止対策に時間を取られることとなった。これらは施設的な制約に由来するところでもあるが、観覧者の視点にたった展示方法をあらためて考え直す契機になった。なお、展示期間中に大山独楽の製作実演および色付け体験会を開催し好評を得た。

(担当) 佐川

#### 「草と木の調査～秋の植物～」速報展

- 期 間 平成13年1月7日(日)～2月18日(日)
- 開場日数 34日間
- 会 場 企画展示室
- 出品点数 約50点
- 料 金 無 料
- 入場者数 2,079人



(趣 旨) 平成11年度から当館の教育普及活動事業として「草と木の調査」を行っている。平成11・12年度は「秋の植物の分布調査」をテーマとした。2年間の講座の成果の発表の場として企画展を開催した。本展は、ひとつは秋の植物の分布調査のまとめとすること、またもうひとつとして本講座は継続の企画であり、企画展を通して講座のPRを図ることを目的とした。

(内 容) 平成11年度と12年度では対象植物、調査方法を変更したことにより、若干異なる結果が得られた。したがって、内容としては、平成12年度秋の結果を中心に紹介した。講座内で行う調査は、月1回ペース、実質計3回の調査であり、町内全域を網羅することは難しく、講座内で調査できない場所については資料館の職員、臨時職員で調査を行った。実際の講座とは別に計9日間の調査機会を設けたがそのことにより大磯全図(1万分の1)に記載されている主だった道路沿いのデータを得ることができた。

展示については調査結果の紹介ともあり、植物が確認された場所にポイントを落としたパネル、植物の写真、解説の文字パネルと、「パネル」が中心であった。参考資料として、アメリカセンダングサとコセンダングサの実物資料、カラスウリ、アメリカセンダングサ、コセンダングサの種子と調査の際に見かけたものも展示した。

展示作業は講座とは分離し、館職員で行ったが、作業を進めながら展示作業も講座の一連の作業として位置付けた方がより参加者も深い理解ができたのではないかと思った。継続して行っていく企画であり、展示準備の参加ということについては今後の課題としたい。

(担当) 北水

#### 「雛人形展」

- 期 間 平成13年2月25日(日)～4月8日(日)
- 開場日数 34日間
- 会 場 企画展示室
- 資料点数 約500点
- 料 金 無 料
- 入場者数 4,336人

(趣 旨) 近年では、平成6年度、平成8年度、平成10年度とほぼ隔年ごとに開催する恒例の展示として位置付けており、本展示は「雛人形展」として5回目の開催である。大磯町とその周辺地域では、近年まで月遅れの4月3日に雛祭りを行う家が多かった。女兒が生まれ初節供を迎えると、嫁の実家か



ら内裏雛が、仲人や兄弟・親戚・隣組などから他の人形が贈られた。贈られた家では、そのお返しとして菱餅を作って贈ったり、当日家に招いてご馳走を出して祝った。また、この日は「花見」とか「山遊び」といって、女兒も男児も重箱にご馳走を詰めて野山へ遊びに行くことがあった。特に男児は山に小屋を作って旗を掲げ、戦争ごっこをすることが多く、このようなことは昭和初期頃までは盛んに行われていたようである。本展示は、大磯町内を中心に集めた雛人形そのものの展示であり、花見や山遊びについて詳しく触れたものではない。しかし、生活様式や家屋様式の変化によって、段飾りの雛人形が博物館へ相次いで寄贈されるなど人々の意識の変容によって、いわゆる年中行事に対する認識や取り組みも変化していることを鑑み、伝統行事を再考していただく契機とする。

(内 容) 当館収蔵の雛人形や道具を中心に展示した。年代順に示すと、江戸末期～明治初期(北下町)、明治36年(東小磯)、明治中期～後期(南本町)、大正～昭和初期(南下町)、昭和7年(南本町)、昭和初期(国府本郷)、昭和27年(国府本郷)、昭和37年(平塚市)、昭和42年(秦野市)の9件の資料である。資料の中には欠損している人形や道具もあるが、それぞれに毛氈を見立てた赤布を敷き、華やかさを演出した。また、今回は南本町で所有している随神(「文化14年再造」銘あり)を借用し公開した。これは南本町の共有物として通常は高来神社の夏祭り(7月)の時だけ南本町公民館に飾られる土人形で、格納されている箱書きには「御随神」「文化丁丑年二月初午再造 昭和八年四月一日彩色」とある。履歴は詳らかではないが、人形本体も大きくて見栄えのするものであるため、本展示の目玉として好評を博したようである。

なお、期間中、アンケート用紙を設置し、展示の感想や自身の雛祭りに関する思い出などを書いていただいた。アンケートは、5歳から82歳までの幅広い年齢の方々から総計58枚回収された。

(担 当) 佐 川

## ■学級・講座

### 「民俗に親しむ会」

- 日 時 平成12年4月15日(出)、5月27日(出)  
6月17日(出)、7月15日(出)  
8月19日(出)、9月16日(出)  
10月21日(出)、11月18日(出)  
12月15日(金)
- 平成13年1月20日(出)、2月17日(出)  
3月17日(出)
- 会 場 研修室
- 参加者 延78人



(内 容) 資料館が収集した資料や情報を地域の人々に還元するために試行錯誤している中で、町民の方々の経験・知恵・技術などを提供していただきながら、それらの活用方法を自主的に企画、実施していこうという、いわゆるワークショップとして平成11年度より始めた事業である。当初より単発的な活動ではなく、継続的に行うことを念頭に置いていたため、年度当初による年間会員制による方法をとっている。平成12年度は当初の会員に欠落がなく、活動も軌道に乗りつつあるため、新たな会員の募集は行わなかった。活動内容は当館所蔵の衣服資料の整理作業を一貫して行っており、特に本年度は布のハギレを資料化に作業の主力をおいた。なお、参加者と館とのコミュニケーションを図り、情報を共有するために「民俗に親しむ会」通信を月1回発行した。

(担 当) 佐 川

## 「海の教室」

- 日 時 平成12年9月3日(日)・9日(出)  
10月28日(土)、12月3日(日)
- 会 場 大磯町内(研修室・照ヶ崎)・二宮町内(二宮駅～梅沢漁港)・小田原市内(国府津駅～前川)
- 講 師 京馬伸子氏(横須賀よこばい歩きの会)  
佐藤照美氏(横須賀よこばい歩きの会)  
西山敏夫氏(漁師)  
石塚勝治氏(郷土史研究家)
- 参加者 延67人



(内 容) 海を知るためには海ばかりを見ていたのでは十分ではないことを認識しながら、海という素材に対して、可能な限りさまざまな視点からアプローチしようという試みである。継続的に行う事業として企画した。平成12年度は、まず最初に「海と接し、海を知り、海を好きになるため」の機会(ビーチコーミング)を設け、楽しみ方(ビーチコーミングアート)を提案することとした。

第1回は「海を楽しむ提案ービーチコーミングとビーチコーミングアート」をテーマに、館内においてレクチャーを行った。ビーチコーミングとは何か、ビーチコーミングから何が見えてくるか、そして漂着物を利用して楽しむビーチコーミングアートなどの解説をする一方で、参加者の方々からこれまで海とどのように関わってきたのか、あるいは今後どのように関わっていききたいかといったことを発言していただいた。そして、第2回に大磯照ヶ崎から大磯町役場下までの海岸で、実際にビーチコーミングを行い、参加者がそれぞれの興味にしがたって漂着物を採集し、最後に皆で披露し合った。なお、第1・2回の講師には生活者としての視点を持っておられる方が相応しいと考え、民俗学や民具学に造詣を持ち、且つ三浦半島を中心にビーチコーミングなどの活動されている「横須賀よこばい歩きの会」の主催者である京馬・佐藤両氏にお願いした。第3回は「ビーチコーミング／二宮の浜」をテーマに、相模湾を西へ向けて歩きながらビーチコーミングを行った。また、梅沢漁港では地元の漁師である西山氏から戦前・戦後の世相や実生活の体験談を聞き、さらに自らが某漁家から収集した50年程前に浜で集められたゴミを披露していただいた。最後に、昔ながらに作ったカマドに漂着物の草木をくべて、ご飯と味噌汁を作る様子を実演していただき、参加者全員で味わった。第4回は「海とくらし」を歩く／小田原の浜」をテーマに、地元の歴史や民俗に精通され、生活者の眼をお持ちの石塚氏の案内によって、海と関わりのある人々の暮らしをめぐる巡検を行った。

ところで、本教室は参加者がそれぞれの興味にしがたって、それぞれの楽しみを見出す過程で「海」を考えていこうというもので、次年度以降もさまざまな視点を用意しながら継続する予定である。なお、参加者と館とのコミュニケーションを図り、情報を共有するために「海の教室通信」(No.1-3)を発行した。

(担 当) 佐川・北水

## 「大山独楽の製作実演と色付け体験会」

- 日 時 平成12年11月3日(日)
- 会 場 研修室
- 講 師 播磨啓太郎氏(大山独楽作り職人)
- 参加者 50人(うち、色付け体験者21人)



(内 容) 企画展「職人の道具ー西相模の手仕事ー」の関連事業として開催した。県内を代表する職種のひとつである木地師(大山独楽作り職人)を招き、製作実演を見学し色付け体験をすることで、職人

の技術やその製品について理解を深めてもらうことを目的とした。

当日は、館職員が木地屋についての解説を行った後に、播磨氏によって大山独楽の製作実演をしていただいた。次いで播磨氏の指導のもとで、希望者（申込制）により電動ロクロとウシと呼ばれる道具を用いながら色付けを体験を行った。なお、最後に屋外で独楽回しを楽しんだが、回すことのできな子どもたちは、参加された年配者によって指導をうけるなど、世代を超えた交流がなされた。

(担当) 佐川

### ＜草と木の調査＞

- 日 時 平成12年8月27日(日)、9月24日(日)  
10月22日(日)、11月26日(日)  
12月9日(土)・10日(日)
- 会 場 研修室、町内
- 参加者 延30人



(内 容) 平成11年度からの新規講座であり、平成11年度・12年度は「秋の植物」という括りで秋に開花する植物、秋に特徴的な果実をつける植物の大磯町内での分布状況を調べた。平成11年度はミズヒキ、カラスウリ、キカラスウリ、オミナエシ、ヒガンバナ、セイトカアワダチソウ、アケビ、ミツバアケビ、センダングサ、アメリカセンダングサ、タウコギ、コセンダングサ、タイアザミ、キクアザミ、タムラソウの15種であったが、12年度はゴヨウアケビ、コシロノセンダングサの2種を加え、17種を対象に行った。調査を行って、タウコギ、キクアザミ、タムラソウ、センダングサは確認できなかった。ゴヨウアケビについては同定が不確かなものを多く含んでおり、正確なデータを得ることができなかった。その他の12種については一様に大まかではあるが、町内での分布状況を確認することができた。ヒガンバナのように町中に生えるものもあれば、ミズヒキのように日陰を好んで生えるもの、セイトカアワダチソウのように休耕田、空き地に群生しているものと、実質3回の調査ではあったが、それぞれの植物がどのような場所に生育するのか特徴をつかむことができた。

(担当) 北水

### ■刊行物

- |                             |         |                      |
|-----------------------------|---------|----------------------|
| ● ミニ展示リーフレット「収蔵動物剥製展」       | A4版 4頁  | 800部 (平成12年4月刊)      |
| ● 企画展チラシ「身近な動物・植物」          | A4版     | — 2,000部 (平成12年7月刊)  |
| ● 常設展リーフレット「城山窯とその器」        | A4版 4頁  | 2,000部 (平成12年10月刊)   |
| ● 企画展チラシ「職人の道具～西相模の手仕事～」    | A4版     | — 2,000部 (平成12年10月刊) |
| ● 企画展リーフレット「職人の道具～西相模の手仕事～」 | A4版 4頁  | 800部 (平成12年10月刊)     |
| ● 企画展リーフレット「『草と木の調査』速報展」    | A4版 10頁 | 200部 (平成13年1月刊)      |
| ● 企画展リーフレット「雛人形展」           | A4版 4頁  | 800部 (平成13年2月刊)      |
| ● Report-大磯町郷土資料館だより-20/21号 | B5版 12頁 | 2,000部 (平成13年3月刊)    |
| ● 年報-平成11年度-                | A4版 36頁 | 800部 (平成13年3月刊)      |

## ■調査・研究・普及

### (館内外の活動)

- ・博物館資料調査／年間／大磯町内外（佐川・國見・北水）
- ・神奈川県博物館協会部会、役員会出席／年間／神奈川県立歴史博物館他（國見）
- ・相模民俗学会総会出席／5月28日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・大磯幼稚園照ヶ崎散策講義／6月20日／大磯幼稚園・照ヶ崎海岸（北水）
- ・第4回常民文化研究講座参加／6月24日／神奈川大学（佐川）
- ・ファミリー教室講義／6月30日／大磯町生涯学習館（北水）
- ・中郡小学校教育研究会夏季社会科部会講義／7月26日／当館（佐川）
- ・東海道宿駅制度制定400年記念展実行委員会幹事会  
9月27日・平成13年1月18日・3月15日／神奈川県立歴史博物館（北水）
- ・平成12年度考古学講座講義／10月1日／相模原市立博物館（國見）
- ・総合研究「関東地域における民具の流通」のための研究会参加  
10月22日・平成13年2月25日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・山西小学校2年生活科講義／10月26日／山西小学校（佐川）
- ・新採用教員「課題的な研修」講義／10月31日／当館（佐川）
- ・相模民俗学会見学会案内／平成13年1月14日／町内（佐川）
- ・国府小学校3年社会科講義／1月18日／国府小学校（佐川）
- ・国府小学校5年社会科講義／1月25日・2月1日／当館・国府小学校（北水）
- ・大磯小学校3年社会科講義／2月6日／大磯小学校（佐川）
- ・国府中学校進路学習講義／2月8日／当館（佐川）
- ・国府小学校5年総合学習講義／2月8日・15日・17日・22日・3月1日・3日／国府小学校（北水）
- ・二宮小学校3年社会科講義／2月9日／二宮小学校（佐川）
- ・日本生活学会発表／2月26日／早稲田大学（佐川）

### (施設・展示解説)

- ・姉妹都市協会(テイトン市)／6月23日／8人
- ・秦野市立南が丘幼稚園PTA／11月21日／30人
- ・山北町文化団体連絡協議会／11月22日／25人
- ・立正大学博物館実習／12月2日／30人
- ・川口市立芝北公民館／12月10日／31人
- ・選挙管理委員会／平成13年1月16日／6人
- ・西桂町生活改善グループ／3月13日／15人

### (執筆)

- ・佐川和裕

2000. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12・2001. 1. 2. 3『民俗に親しむ会Information』No10～21 大磯町郷土資料館  
講座通信
- ・7『守屋家所蔵「四季耕作図」について』[民具マンスリー] 33巻4号 神奈川大学日本常民文化研究所
  - ・10. 11・2001. 3『海の教室通信』No1～3 大磯町郷土資料館講座通信
  - ・10『「職人の道具－西相模の手仕事－」観覧の手引き』大磯町郷土資料館企画展リーフレット
2001. 2『雛人形展』大磯町郷土資料館企画展リーフレット
- ・3『三館共同収蔵品展「職人の道具」』(分担執筆)『技能文化』第11号(助横浜市勤労福祉財団)
  - ・3『大磯町域の「塚」－記録と伝承－』[十三塚 運動公園建設予定地内における埋蔵文化発掘調査の記録I] 大磯町文化財調査報告書第44集 大磯町教育委員会
  - ・3『山北町史 別編 民俗』(分担執筆) 山北町

・ 國 見 徹

2000. 8 「汽土版」『季刊考古学』第72号 雄山閣

2001. 3 「十三塚」大磯町文化財調査報告書第44集 大磯町教育委員会（共編著）

・ 北 水 慶 一

2000. 4 「収蔵動物剥製展」大磯町郷土資料館ミニ展示リーフレット

2001. 1 「草と木の調査」速報展」大磯町郷土資料館企画展示リーフレット

3 「草と木の調査実施報告」『年報-平成11年度-』大磯町郷土資料館

3 「草と木の調査予備調査～タンポポの分布調査から分かったこと～」『Report-大磯町郷土資料館だより』20/21 大磯町郷土資料館

## ■ 博物館実習

平成12年度の博物館実習は、4大学から4名の学生（以下実習生）を受け入れた。実習期間は、平成12年9月1日から14日の間（休館日を除く）、および7月25日（ガイダンス）と9月22日（課題提出）の計14日間である。

実習の課程は、実務実習を中心とした前半と、展示替実習を中心とした後半とに大別される。前半の実習では、資料の操作に関わる作業を中心に行い、博物館資料の流れや日常の博物館業務に対する認知と理解を図っている。限られた期間内での実習においては、専門的知識や技術の習得はむずかしいため、当館においてはあくまで分野を越え、博物館全体の業務の流れを認識してもらうことを主眼としている。当館の実習の特徴である。実習生に対して学芸員全体で対応する点や実習生の専攻分野を特定しない点は、このような事由によるものである。

実習後半においては、前半の実習成果を踏まえ展示替実習を行った。展示替実習は実習課程の中核および総仕上げとして位置付け、当館において初めて実習生を受け入れた平成2年度から一貫して行っている。展示替実習とは常設展示室の一角を利用して小企画展を行うものであり、展示の構想から完成までの作業は実習生が主体となって行い、学芸員は監修・指導的立場となる。

今回の展示替実習では、当地が立地する「城山」を題材とした。題名は「城山窯とその器」とし、発掘調査によって得られた製品や往時の写真パネルによって展示を構成した。

現在、博物館実習については多くの議論・検討の対象となっており、各博物館でも種々の取り組みがなされている。当館における実習も、より良い方向への不断の模索が必要であると考えられる。

### 〔実習生〕

林 純子（駒澤大学）・板倉直子（東海大学）・齋藤征子（鶴見大学）・小林竜一（立正大学）

### 〔課 程〕

7月25日(火)	ガイダンス・館内見学	9月8日(金)	展示替実習（構想・資料調査）
9月1日(日)	講義・館周辺見学	9月9日(土)	講座参加／展示替実習（企画立案）
9月2日(日)	実務実習（講座準備・資料整理）	9月10日(日)	展示替実習（写真撮影・パネル作成）
9月3日(日)	講座参加	9月12日(火)	展示替実習（旧展示片付・器材作成）
9月5日(火)	民俗資料受入・実技実習（梱包）	9月13日(水)	展示替実習（資料展示・原稿作成）
9月6日(水)	民俗資料登録・洗浄	9月14日(木)	展示替実習（資料展示・記録）
9月7日(木)	施設見学・実技実習（軸物・映写機等）	9月22日(金)	総括（展示補足作業・課題等提出）

（担当） 國見、佐川、北水

# ■博物館資料の収集と利用

(寄贈資料)

(敬称略)

No	受入年月日	資料名	数量	受入先	No	受入年月日	資料名	数量	受入先
0419	H12. 4. 2	標札(寶積院鐘樓)	1	鈴木良一 大磯町国府新宿	0701	H12. 7. 5	ナワバチ 他	一括	西山敏夫 二宮町山西
0421	H12. 4. 5	吸入器 他	一括	長谷川正三郎 小田原市国府津	0702	H12. 7. 15	キモノ 他	7	佐々木佳子 大磯町生沢
0422	H12. 4. 7	ドビン 他	一括	長谷川正三郎 小田原市国府津	0703	H12. 7. 15	書 籍	1	藤田輝子 大磯町高麗
0424	H12. 4. 12	雛人形	一式	栗原治子 平塚市東中原	0704	H12. 7. 18	木遣師のキモノ	7	北浜青年団 大磯町大磯
0425	H12. 4. 13	マサカリ 他	一括	松下敏昭 日野市程久保	0705	H12. 7. 18	蝶標本 他	51	木村純子 大磯町大磯
0426	H12. 4. 14	ラジオ	1	藤田金蔵 大磯町国府本郷	0706	H12. 7. 21	絵はがき	一括	飯田善雄 大磯町大磯
0427	H12. 4. 18	ビデオカメラ	1	原 勲 湘栄建設㈱	0707	H12. 7. 25	ポスター	12	飯田福信 大磯町大磯
0429	H12. 4. 19	洗濯機 他	2	西海 誠 大磯町大磯	0802	H12. 8. 13	絵はがき	16	加藤登思枝 大磯町国府本郷
0430	H12. 4. 20	鉄製品	1	湘栄建設㈱	0803	H12. 8. 17	木 箱	1	大石浩準 小田原市東町
0431	H12. 4. 20	磁器飯碗 他	2	湘栄建設㈱	0804	H12. 8. 17	衣類 他	7	飯田善雄 大磯町大磯
0432	H12. 4. 20	徳 利	1	湘栄建設㈱	0806	H12. 8. 17	ウシバリキ 他	10	守屋好男 大磯町黒岩
0434	H12. 4. 27	衣類 他	一括	飯田善雄 大磯町大磯	0901	H12. 9. 5	冷蔵庫 他	10	橋谷田一郎 東京都文京区
0435	H12. 4. 27	補職人道具	一式	山本武男 大磯町大磯	0902	H12. 9. 7	漂着物	6	福田良昭 大磯町大磯
0436	H12. 4. 28	フロオケ	1	橋文風呂住設 大磯町大磯	0903	H12. 9. 7	昆虫標本	124	木村純子 大磯町大磯
0501	H12. 5. 7	神奈川県中部国府 地番反別入地圖	1	山口 修 大磯町国府本郷	0904	H12. 9. 8	ウス 他	2	横手正雄 大磯町大磯
0503	H12. 5. 9	ソロバン 他	一括	西海 誠 大磯町大磯	0905	H12. 9. 10	ナワバチ 他	一括	西山敏夫 二宮町山西
0504	H12. 5. 16	灯歌集	2	込山智子 藤沢市辻堂	0906	H12. 9. 13	オゼン 他	7	川瀬文字 大磯町西小磯
0505	H12. 5. 25	土師器器台	1	今野 実 大磯町月京	0907	H12. 9. 29	机 他	14	船橋俊通 大磯町大磯
0506	H12. 5. 26	センタクイタ	1	匿名 大磯町国府本郷	0908	H12. 9. 29	昆虫標本	44	木村純子 大磯町大磯
0507	H12. 5. 27	マイワイ 他	一	原 利子 大磯町大磯	1001	H12.10.31	モノサシ	12	橋本嘉博 大磯町大磯
0508	H12. 5. 27	オ ビ	1	北谷澄子 大磯町西小磯	1102	H12.11.15	ナガダイ 他	10	岡田 登 大磯町国府本郷
0509	H12. 5. 26	撮影機 他	3	小島 弘 大磯町西久保	1103	H12.11.16	絵はがき 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0601	H12. 6. 6	アンバリ	5	斎藤安之助 大磯町大磯	1104	H12.11.18	絞りの図案 他	一括	藤田輝子 大磯町高麗
0602	H12. 6. 28	ケズリカケ	2	波多野正夫 栗野市上今川	1105	H12.11.24	冊 子	1	加藤廣美 大磯町国府本郷

No.	受入年月日	資 料 名	数量	受 入 先	No.	受入年月日	資 料 名	数量	受 入 先
1106	H12.11.21	電気釜 他	13	㈱プロバスト 東京都千代田区	0304	H13. 3. 4	大工道具	一括	小島 弘 大磯町西久保
1201	H12.12. 3	ハチマキ	1	内田勝彦 小田原市前川	0305	H13. 3. 6	雛人形	一式	五十嵐良子 二宮町百合ヶ丘
1202	H12.12. 5	昆虫標本 他	54	木村純子 大磯町大磯	0306	H13. 3. 6	テツカブト 他	8	裏島平八郎 大磯町国府新宿
1203	H12.12. 6	額	5	岡田 登 大磯町国府本郷	0307	H13. 3. 6	書籍(複写) 他	2	船橋俊通 大磯町大磯
0201	H13. 2. 6	ハオリ 他	4	佐藤久雄 大磯町東町	0308	H13. 3. 7	自転車	1	鈴木菊え 大磯町西小磯
0202	H13. 2.13	ウチワ 他	一括	加藤廣美 大磯町国府本郷	0309	H13. 3. 8	ソノシート集 他	一括	加藤登思枝 大磯町国府本郷
0203	H13. 2.14	アブラサシ 他	3	木村純子 大磯町大磯	0310	H13. 3.13	雛人形	一式	滝山昭枝 平塚市桜ヶ丘
0204	H13. 2.15	チャブダイ 他	一括	土屋フサ 大磯町西小磯	0311	H13. 3.14	スリバチ 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0205	H13. 2.20	ネコアンカ 他	4	土屋フサ 大磯町西小磯	0312	H13. 3.16	赤煉瓦	22	後藤 操 大磯町国府本郷
0206	H13. 2.28	カイマキブドン	2	加藤登思枝 大磯町国府本郷	0313	H13. 3.21	衣類 他	7	吉川修司 大磯町国府本郷
0301	H13. 3. 2	アイロン 他	19	加藤登思枝 大磯町国府本郷	0314	H13. 3.22	オルガン	1	光野淳子 大磯町大磯
0302	H13. 3. 2	雛人形	一式	関野恭巨 大磯町大磯	0315	H13. 3.24	ゾウリ 他	一括	加藤廣美 大磯町国府本郷
0303	H13. 3. 2	カヤ 他	3	土屋フサ 大磯町西小磯					

〔寄託資料〕

(敬称略、寄託期間 H12. 4. 1～H14. 3. 31)

No.	受入年月日	資 料 名	数量	受 入 先	No.	受入年月日	資 料 名	数量	受 入 先
0401	H12. 4. 1	雛人形	一式	田川順三 横浜市緑区	0411	H12. 4. 1	四季耕作図 他	9	守屋町子 大磯町黒岩
0402	H12. 4. 1	高 札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0412	H12. 4. 1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯
0403	H12. 4. 1	一本松稲荷講中 資料	一括	富代治吉 大磯町大磯	0413	H12. 4. 1	掛軸 他	一括	西小磯東西区
0404	H12. 4. 1	菊池重三郎関係 資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0414	H12. 4. 1	山高帽 他	一括	西小磯東区
0405	H12. 4. 1	クロッカスガー デン看板	1	添田光雄 大磯町国府本郷	0415	H12. 4. 1	獅子頭	2	裡道区
0406	H12. 4. 1	書(断片)	一括	加藤文八 平塚市諏訪町	0416	H12. 4. 1	掛軸 他	一括	飯島成三 横浜市中区
0407	H12. 4. 1	古文書	一括	後藤 勲 大磯町月京	0417	H12. 4. 1	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
0408	H12. 4. 1	稲荷講資料	一括	戸塚 浩 大磯町西小磯	0418	H12. 4. 1	古文書	一括	近藤敬一郎 東京都新宿区
0409	H12. 4. 1	書 籍	2	山川 正 大磯町国府新宿	0502	H12. 5. 9	書 幅	1	二宮勝男 平塚市下吉沢
0410	H12. 4. 1	子供会旗 他	一括	西小磯子ども会					

## (購入資料)

No	受入年月日	資料名	数量	受入先	No	受入年月日	資料名	数量	受入先
0423	H12. 4. 7	陶磁器	一括	長谷川商店 小田原市国府津	1107	H12.11.30	上棟セット	1	鈴木屋雑貨店 大磯町西小磯
0428	H12. 4.18	陶磁器	一括	長谷川商店 小田原市国府津	1204	H12.12.10	古写真	1	すりもの堂書店 東京都町田市

## (資料の館外貸出)

資料名	点数	利用目的	期 間	申請者	資料名	点数	利用目的	期 間	申請者
写真 他	6	雑誌掲載	H12. 4.12 ～ 4.26	柳かまくら 春秋社	写 真	1	刊行物掲載	H12. 9.10 ～ 9.19	神奈川大学
古文書 (旧国府村資料)	3	町史編纂	H12. 4.19 ～ 8.31	大磯町 教育委員会	文 書 (鴨立庵関係)	8	町史編纂	H12. 9.29 ～12.28	大磯町 教育委員会
衣 類	20	自主研究	H12. 4.21 ～ 4.25	個 人	平瓶 他	10	町史編纂	H12.10. 6 ～12.20	立正大学
ポスター カラーポジ	1	雑誌掲載	H12. 4.21 ～ 6.21	柳アルク	スライド (左義長)	2	雑誌掲載	H12.10. 8 ～10.30	柳かまくら 春秋社
縄文土器	160	社会科教材	H12. 5. 1 ～ 3.31	大磯小学校	古文書 (漁協資料 他)	2	町史編纂	H12.10.17 ～12.28	大磯町 教育委員会
楕形尖頭器	1	講演会資料	H12. 5.18 ～ 5.18	個 人	浮世絵	3	展 示	H12.10.18 ～12.10	品川区立 歴史博物館
ビデオ (展示映像 他)	2	試 聴	H12. 6.11 ～ 6.24	柳ハウフルス	スチーム アイロン	1	放 映	H12.10.31 ～11. 8	N H K
絵はがき	6	展示資料	H12. 6.23 ～10. 6	古賀政男美術 文化振興財団	写 真	3	雑誌掲載	H12.11.29 ～ 1.31	スタジオ ページワン
ビデオ (御船祭)	2	授 業	H12. 7. 4 ～ 7.23	国府中学校	漁 網	3	展 示	H12.12. 7 ～12.26	東京ガス㈱
獅子頭	2	祭 礼	H12. 7.14 ～ 7.18	裡道区	写真 他	7	刊行物掲載	H12.12.24 ～ 1.19	柳新人物 従来社
写真 他	9	ホームページ 掲 載	H12. 7.14 ～ 7.26	かながわ マルチメディア	写 真	3	雑誌掲載	H13. 2. 2 ～ 2.21	大磯町役場 都市整備課
写 真	2	寒川町 町史編纂	H12. 7.19 ～ 8. 7	寒川町企画部 町史編纂課	横瓶 他	8	参考資料	H13. 2. 8 ～ 4.30	立正大学
コマ 他	174	企画展展示	H12. 7.28 ～12. 8	神奈川県立 公文書館	写 真	4	雑誌掲載	H13. 2.16 ～ 3.21	個 人
書籍 他	5	展 示 図録掲載	H12. 7.30 ～11.19	早稲田大学 演劇博物館	坊地遺跡資料	2	町史編纂	H13. 2.18 ～ 3.16	東海大学
書 籍	1	参考資料	H12. 8. 9 ～ 8.28	個 人	掛軸 他	5	祭 礼	H13. 3.10 ～ 3.11	個 人
古文書 (行政資料)	8	町史編纂	H12. 9. 3 ～12.27	大磯町 教育委員会	写 真	1	雑誌掲載	H13. 3.22 ～ 4.10	神奈川県 文化課



〔資料の特別利用〕

資料名	点数	利用目的	期 間	申 請 者	資料名	点数	利用目的	期 間	申 請 者
絵はがき	-	複写/発表	H12. 4. 7	個 人	資料館館内	-	撮影/資料	H12. 9. 1	個 人
小島本陣絵図	-	複写/刊行	H12. 4. 13	㈱コクサイ クリエイティブ センター	資料館館内	-	撮影/資料	H12. 9. 1	個 人
錦絵 他	15	撮影/刊行	H12. 4. 21	㈱アルク	錦 絵	1	撮影/放映	H12. 9. 14	テレビ朝日
資料館館内	1	撮影/掲載	H12. 5. 3	個 人	資料館館内	-	撮影/資料	H12.11. 8	個 人
写 真 絵はがき	-	撮影/調査	H12. 5. 9	古賀政男音楽 文化振興財団	資料館館内	-	撮影/刊行	H12.12. 2	個 人
ポスター 他	-	撮影/掲載	H12. 5. 13	㈱クリック	資料館館内	-	撮影/発表	H12.12.13	個 人
出土尖底土器	-括	撮影/刊行	H12. 5. 14	個 人	資料館館内	-	撮影/資料	H12.12.26	個 人
写 真	2	撮影/刊行	H12. 5. 29	㈱アルク	錦絵 他	-	撮影/放映	H13. 1. 14	TVKテレビ
台付直口壺	1	撮影/刊行	H12. 5. 30	東京国立 博物館	資料館館内	-	撮影/刊行	H13. 1. 14	個 人
錦絵 他	19	撮影/放映	H12. 6. 14	㈱ハウフルス	ポスター 他	2	撮影/掲載	H13. 2. 16	個 人
小島本陣資料	-	撮影/掲載	H12. 7. 7	神奈川県マルチ メディア産業 推進協議会	資料館館内	-	撮影/放映	H13. 2. 16	ケーブルテレビ
絵はがき	11	撮影/資料	H12. 7. 19	寒川町企画部 町史編纂課	写 真	-	撮影/掲載	H13. 2. 20	神奈川県 自然環境保全 センター
資料館館内	-	撮影/調査	H12. 7. 21	個 人	鳴上庵資料 他	-	撮影/研究	H13. 3. 6	個 人
土器 他	6	撮影/研究	H12. 7. 29	個 人	資料館館内	-	撮影/資料	H13. 3. 9	個 人
絵はがき 他	-	撮影/放映	H12. 8. 2	テレビ朝日	写真 他	-	撮影/刊行	H13. 3. 13	エーディ プラント㈱
資料館館内	-	撮影/資料	H12. 8. 17	個 人	ヤンナゴッコ	-	撮影/資料	H13. 3. 23	個 人
資料館館内	-	撮影/資料	H12. 8. 31	個 人	クロッカス ガーデン看板	-	撮影/資料	H13. 3. 25	個 人
資料館館内	-	撮影/発表	H12. 9. 1	個 人					

<寄贈圖書一覧>

出版地	寄贈者	書名	発行年月
伊勢原市	伊勢原市立こども科学館	『平成12年度 伊勢原市立子ども科学館年報』	2000/11
寒川町	寒川町教育委員会 寒川町企画部史編さん課	『神奈川県高層部寒川町 大蔵東原遺跡 第9次 発掘調査報告書』	2000/08
		『寒川町史研究 第13号 2000』	2000/03
		『寒川町史調査報告書 10』	2000/03
		『寒川町史資料所在目録 第14集』	2000/03
		『寒川町史 15 別編 図録さむかわ』	2000/11
		『寒川町史 7 通史編 近・現代』	2000/09
茅ヶ崎市	(財)かながわ海岸美化財団 茅ヶ崎市教育委員会	『Sealan Vol.9 2000』	2000/03
		『文化資料館調査研究報告 8』	2000/03
		『茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告 13 神奈川県茅ヶ崎市 円蔵御屋敷A遺跡』	2000/03
		『茅ヶ崎市文化財資料集 第13集 神奈川県指定遺跡 堤貝塚』	2000/03
		『茅ヶ崎市文化振興財団調査報告1 円蔵・下ヶ町遺跡』	2000/03
		『茅ヶ崎の水生動物 川や水たまりの生きもの』	2000/03
	茅ヶ崎自然環境研究会 茅ヶ崎市文化資料館	『自然の新聞』第207～215号	2000
		『文化資料館 調査研究報告8』	2000/03
		『グリーンタフ 会員名簿』	2000/02
		『丹沢だより』No.363～371	2000-2001
秦野市	グリーンタフ	『秦野市文化財調査報告書2 秦野の石仏(三) 一北東地区一』	2000/03
	丹沢自然保護協会 秦野市教育委員会	『秦野の文化財 第36集』	2000/03
		『神奈川県秦野市 桜土手古墳群の調査(第二次)』	2000/02
		『秦野市立 桜土手古墳展示館 研究紀要 第1号』	2000/03
		『秦野市史研究 一第十九号一』	2000/03
	秦野市総務部情報課 秦野市立桜土手古墳展示館	『秦野市立桜土手古墳展示館だより』vol. 18	2000
平塚市	神奈川県教育庁中教育事務所	『ハルーン No.5』	2000
		『社会教育資料2000 中地区の社会教育』	2000
	神奈川県社会教育協会中支部	『発足20周年記念誌 平成12年(2000年) 7月』	2000/07
	神奈川県立五領ヶ台高等学校	『2000 西湘の自然 第2報』	2000/11
	東海大学校地内遺跡調査団	『王子ノ台遺跡Ⅲ 弥生・古墳』	2000/03
	東海大学文学部広報委員会	『キャンパス・グラフィティ』No.16～31	2000
	平塚市教育委員会	『平塚市埋蔵文化財シリーズ34 梶原A遺跡 他』	2000/03
		『構之内遺跡発掘調査報告書 三株式会社平塚工場建設に伴う発掘調査Ⅱ』	2000/03
	平塚市中央図書館	『地方行政資料目録 平成11年度』	2000/05
	平塚市博物館	『秋期特別展 『街の中の石材 一地球からの贈り物一』図録』	2000
		『ガイドブック17 平塚の遺跡』	2000/03
		『平塚博物館研究報告 自然と文化 No.23』	2000/03
	『平塚市博物館資料 No.49 湘南植物誌 V』	2000/03	
藤沢市	湘南考古学研究所 日本大学生物資源科学部資料館 藤沢市教育委員会	『藤沢市川名清水遺跡発掘調査報告書(東し基礎研究所内)』	2000/07
		『資料館報 第9号』	2000/03
		『藤沢市文化調査報告書 第35集』	2000/03
		『市民が語る十五年戦争』	2000/03
	藤沢市文書館	『藤沢市史料集(二十四) 高座郡羽鳥村『御用留』(万延元年～明治3年)』	2000/03
		『藤沢市文書館 紀要 二十三』	2000/06
		『藤沢市史研究 33』	2000/03
	『藤沢市制60周年記念 市民が語る60年(続) 藤沢市史別編1』	2000/10	
小田原市	小田原市郷土文化館 小田原城天守閣	『小田原市郷土文化館研究報告 No.36 (自然科学 No.18)』	2000/03
		『特別展 『復興 小田原城天守閣 一昭和の天守閣再建一』図録』	2000
		『小田原城天守閣 復興40年のあゆみ』	2000/11
	神奈川県立生命の星・地球博物館	『特別展 『サルがいて、ヒトがいて』図録』	2000
		『自然科学のとびら』第20、22、23号	2000
		『神奈川県立自然史資料 21 Mar.2000』	2000/03
	『神奈川県立博物館 研究報告 自然科学29号』	2000/03	
	『神奈川県立博物館 年報 第5号(1999年度)』	2000/11	
	『ニホンザルの今・昔・未来 一野生動物との共存を考える一』	2000/03	
中井町	江戸民具街道	『びっくり街道』	2000/04
箱根町	箱根町立郷土資料館	企画展 『焼けた遺宝 一修復された指定文化財一』図録	2000
南足柄市	南足柄市郷土資料館	『郷土資料館調査報告書第十集 水と暮らしの今・昔』	2000/06
山北町	山北町教育委員会	『足柄の文化 第27集』	2000/03
	神奈川県立丹沢湖ビジターセンター	『丹沢湖ビジターセンター活動報告 1999』	2000/03
横浜市	馬の博物館	春季特別展 『旅一馬と人 浮世絵に見る東海道と木曾街道の旅』図録	2000
		『馬の博物館だより』No.35～36	2000
		『うまはくブックレット No.1 馬と石造馬頭観音』	2000/01
		『馬の博物館 研究紀要 第12号』	1999/12
		『馬車の東西文明展』	2000/09

出版地	寄贈者	書名	発行年月
(財)神奈川近代文学振興会		『神奈川近代文学館』第68～71号	2000
(財)かながわ考古学財団		『かながわ考古学財団調査報告19 宮ヶ瀬遺跡群Ⅲ(第1分冊、第2分冊)』	1997/03
		『かながわ考古学財団調査報告80 ミツ俣遺跡Ⅱ(F地区)』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告81 ミツ俣遺跡Ⅲ(第1分冊、第2分冊)』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告76 ミノ宮・下谷戸遺跡(No.14)Ⅱ』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告65 松本谷戸遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告79 原東遺跡』	2000/03
		『神奈川県立埋蔵文化財センター 年報18 平成10年度』	1999/12
		『川尻遺跡Ⅱ』	2000/02
		『かながわ考古学財団調査報告書88 鎌倉城(二階堂紅葉ヶ谷)所在やぐら群』	2000/01
		『かながわ考古学財団調査報告書89 鎌倉城(大町3丁目)所在やぐら群』	2000/01
		『かながわ考古学財団調査報告書90 極楽寺やぐら群』	2000/01
		『かながわ考古学財団調査報告書91 福泉やぐら群』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書92 長勝寺跡所在やぐら群』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書93 極楽寺やぐら群』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書94 弁ヶ谷東やぐら群』	2000/03
		『研究紀要5 かながわの考古学』	2000/03
		『瀬戸町やぐら群・横穴墓』	2000/03
		『後山田南遺跡』	2000/03
		『高山横穴墓群(2次)』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書42 宮ヶ瀬遺跡群ⅤⅥ』	1983/03
		『かながわ考古学財団調査報告書50 宮ヶ瀬遺跡群ⅤⅦ』	1999/03
		『かながわ考古学財団調査報告書84 陸屋谷やぐら群遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書85 和田山やぐら群遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書95 平原屈仲原遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書96 大塚堂遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書97 堂地谷やぐら群』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書99 六浦三艘地区やぐら群』	2000/05
		『新小倉横間遺跡 原東遺跡・川尻中村遺跡 図録』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書37 長津田遺跡群Ⅳ』	1998/03
		『かながわ考古学財団調査報告書58 長津田遺跡群Ⅴ』	1999/03
		『かながわ考古学財団調査報告書98 弁ヶ谷やぐら群』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書61 園分尼寺北方遺跡』	1998/06
		『かながわ考古学財団調査報告書75 天神谷戸遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書78 平和坂遺跡』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書48 吉岡遺跡群ⅤⅥ』	1999/03
		『かながわ考古学財団調査報告書67 坪ノ内・貝ヶ窪遺跡(No.18、19、43)、 笠窪・谷戸遺跡(No.20、42)』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書77 坪ノ内・宮ノ前遺跡(No.20、42)』	2000/03
		『長柄・桜山第1・2号墳』	2000/03
		『かながわ考古学財団調査報告書43 池子遺跡群ⅤⅥ』	1999/03
		『発掘された いにしえの国府津 ミツ俣遺跡』	1999/02
(財)横浜市ふるさと歴史財団		『国指定史跡 川尻石器時代遺跡 範囲確認調査報告書』	
		『都筑自然公園予定地内遺跡群(3) 発掘調査報告』	
		『港北ニュータウン地域内 埋蔵文化財調査報告26 大黒仲町遺跡 (本文編)(挿図・図版編)』	2000/05
		『茅ヶ崎城Ⅲ』	2000/03
神奈川近代文学館		『神奈川近代文学館年報 1999年(平成11年度)』	2000/07
神奈川県企業庁		『県営水道 さがみの水 第10号』	2000
神奈川県教育委員会		『PLANET かながわ』No.13～15	2000
		『神奈川県の文化財調査報告 遥か』	1986
神奈川東海道ルネサンス協議会		『神奈川の東海道(下) ―遠かな時代の賑わい』	2000/07
神奈川県民俗芸能保存協会		『かながわの民俗芸能 第64号』	2000/03
神奈川県立公文書館		『神奈川県立公文書館だより 第6号』	2000/03
神奈川県立図書館		『郷土神奈川 第38号』	2000/03
神奈川県立歴史博物館		『さよなら 20世紀 カメラがとらえた日本の100年』図録 特別展『鎌倉彫名品展 ―古典から近代鎌倉彫まで』図録 『神奈川県立歴史博物館だより』第153～155号	2000
		『歴史系博物館における子ども学習プログラムの研究 報告書』	2000/03
		『神奈川文化財図鑑 無形文化財・民俗資料編』	1973/03
		『付 神奈川の民俗芸能 (LP2枚セット)』	1973/03
		『神奈川県立歴史博物館年報 平成11年度』	2000/06
		『神奈川県立博物館研究報告 一人文科学― 第26号』	2000/03
神奈川地域史研究会		『神奈川地域史研究会 会報』第55～58号	1999～2000
神奈川町村会		『かながわ 町村会報』第94～97号	2000～2001
金沢動物園		『ZOO よこはま No.40』	2000

出版地	寄贈者	書名	発行年月
		『横浜市動物園年報 平成11年度』	2000/09
	グリーンタフ事務局	『自然観察』第224～233号	2000-2001
	寺家ふるさと村「四季の家」	『はなあふ通信』5～2月号	2000-2001
	自然環境保全センター	『神奈川県立 自然保護センター報告 第17号 平成12年』	2000/03
	シルク博物館	『シルク博物館 所蔵品目録』	1999/03
	玉川文化財研究所	『東京都板橋区 小茂根山遺跡 第1地点』	2000
		『神奈川県厚木市 恩名沖原遺跡発掘調査報告書』	2000/02
		『川崎市高津区 千年伊勢山台北遺跡発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県平塚市 上吉沢市場地区遺跡群発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県藤沢市 稲荷台地遺跡群 E・F・S地点発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県小田原市 小田原城三の丸東堀第IV地点発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県座間市 米軍キャンプ座間地内遺跡 発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県伊勢原市 池端地区遺跡群発掘調査報告書』	2000/03
		『神奈川県鎌倉市 早川城山地区遺跡群発掘調査報告書』	2000/03
	横浜市教育委員会	『神奈川県海老名市 海老名No.69遺跡 発掘調査報告書』	2000/04
	横浜自然観察の森	『平成10年度 文化財年報(埋蔵文化財 その17)』	2000/03
		『1999年度 横浜自然観察の森 調査報告5』	2000/06
	横浜市歴史博物館	『横浜自然観察の森 事業概要書 第12号 平成12(2000)年度』	2000/07
		企画展『中世の梵鐘』図録	2000
		特別展『秀吉襲来 一近世関東の幕明け』図録	2000
		『横浜市歴史博物館 資料目録 第7集』	1998/11
		『平成10年版 年報』	2000/03
		『横浜市歴史博物館紀要 第三号』	1999/03
		企画展『移りゆく横浜の海辺 一海とともに暮らしていた頃』図録	1999/07
	横浜マライタイムミュージアム	企画展関連出版物『フォトカードブック・海とともに暮らしていた頃』	1999/07
		企画展『港の仕事 一横浜港を支える人たち』図録	2000
	神奈川県博物館協会	『マライタイム ミュージアム ニュース』No.8～10	2000
		『加蓋館職員名簿 2000』	2000/09
		『第48回全国博物館大会資料Ⅲ「対話と連携」の博物館』	2000/07
		『平成12年度 理事会・総会報告書』	2000/07
		『大塚高来神社夏季大祭 2000年7月16日』(ビデオテープ)	2000/07
川崎市	川崎市市民ミュージアム	『museum news』vol. 54～57	2000
		『川崎市市民ミュージアム 紀要 第12号』	2000/03
		『川崎市市民ミュージアム考古学叢書 4 下原遺跡』	
	川崎市立日本民家園	『日本民家園だより 川崎市立 日本民家園 第44号』	2000/07
	細山郷土資料館	『ほそ山』第20号	2000
		『資料館二十年の歩み』	2000/05
		『郷土の農具・民具資料の図録』	2000/05
鎌倉市	かまくら春秋社	『We 湘南 かまくらからの手紙 vol. 86』	1999/10
		『We 湘南 2000 SUMMER vol. 87』	2000/04
		『We 湘南 2001 SPECIAL PRESENTS vol. 88』	2000/10
	鎌倉市教育委員会	『若宮大路遺跡発掘調査報告書・X』	2000/03
		『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 平成11年度発掘調査報告(第1分冊)』	2000/03
		『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』	2000/03
	鎌倉文学館	特別展『晶子・かの子と鎌倉 一愛・いのち・文学』図録	2000
横須賀市	神奈川県自然保全研究会	『神奈川県自然保全研究会報告書 第15号 平成7～11年度報告』	2000/07
	横須賀市教育委員会	『横須賀市文化財調査報告書第35集』	2000/03
		新指定重要文化財・重要民俗文化財調査報告書』	
		『横須賀市埋蔵文化財調査報告書 第8集 長井台地遺跡群 内原遺跡』	2000/03
	横須賀市自然・人文博物館	『横須賀市 博物館報 No.46』	2000/01
		『横須賀市博物館研究報告(自然科学) 第47号』	2000/03
		『横須賀市博物館資料集 第25号 横須賀市自然・人文博物館所蔵植物資料目録(Ⅲ)』	2000/03
		『横須賀市博物館研究報告(人文科学) 第44号』	2000/03
		『考古資料目録 XV』	2000/03
		『三浦半島 自然と人文の世界』	2000/09
愛川町	愛川町教育委員会	『愛川町古文書目録 1』	2000/03
厚木市	厚木市郷土資料館	特別展『化石』図録	2000
	厚木市文化財協会	『厚木市文化財協会会報 阿夫利 第14号』	2000/11
	県央史談会	『県央史談 第40号』	2001/01
綾瀬市	綾瀬市	『綾瀬市史研究 第7号』	2000/03
		『綾瀬市史調査報告書2 動物・植物データ集』	2000/03
清川村	神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター	『宮ヶ瀬ビジターセンター発 2000年丹沢周辺自然情報』	2001/01
相模原市	相模原市教育委員会	『平成12年 相模原市文化財年報』	2000/08
		『埋蔵文化財発掘調査概報集』	2000/03
		『勝坂遺跡54次調査』	2000/03

出版地	寄贈者	書名	発行年月
		『上溝7丁目遺跡』	2000/03
		『田名堀ノ内遺跡』	2000/03
	相模原市立相模川ふれあい博物館	『相模川ふれあい科学館だより No.16』	2001/01
	相模原市立博物館	『相模原市立博物館 NEWS』 vol. 18～21	2000～2001
		『相模原市立博物館研究報告 第9集』	2000/03
		『地図資料目録Ⅱ 一般図・主題図・地形図』	2000/03
座間市	座間市教育委員会	『座間むかしむかし 第二十二集』	2000/03
津久井町	津久井町教育委員会	『津久井城の調査 Ⅲ』	1999/12
大和市	大和市教育委員会	『大和市渋谷(南部地区)土地区画整理事業地内遺跡』	2000/03
		『やまと書語11 大正・昭和を歩んだ女性達』	2000/03
		『大和市文化財調査報告書 第73集 下鶴間の旧小倉家土蔵 解体調査編』	2000/03
		『大和市文化財調査報告書 第74集 大和市No.1遺跡第2次調査、深見神社北遺跡第4次調査、神明若宮地区内遺跡自然科学分析篇』	2000/03
		『大和市文化財調査報告書 第75集 下鶴間の長谷川家資料総合調査報告書目録編 2』	2000/03
茨城県	東町立歴史民俗博物館	『東大沼古墳群第7号墳 発掘調査報告書』	2000/03
	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	『常設展示図録』	2000/03
		『国指定史跡 上高津貝塚E地点』	2000/03
栃木県	小山市立博物館	企画展『古代の人の大刀のかがやき』図録	2000
		企画展『技に生きる 一匠の世界』図録	2000
		『博物館だより』 31～32	2000
群馬県	北橋村教育委員会	『北橋村 縄文土器図録』	1997/03
		『平成11年度 北橋村文化財年報 1』	2000/03
		『北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 北町遺跡、田ノ保遺跡』	1996/03
		『北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集 北橋村内遺跡 Ⅷ』	2003/03
	群馬県勢多郡富士見村教育委員会	『東紺屋谷戸遺跡』	1998/03
		『小沢の埴遺跡』	1998/03
		『久久保B遺跡』	1998/03
		『時沢中谷遺跡』	1998/03
		『小暮北受地遺跡』	1998/06
		『原之郷鯉沢遺跡』	1998/03
		『平成8年度 村内遺跡』	1997/03
		『平成9年度 村内遺跡』	1998/03
		『平成10年度 村内遺跡』	1999/03
		『平成11年度 村内遺跡』	2000/03
		『小原目遺跡』	1998/09
埼玉県	さいたま川の博物館	『かわはく』 No.7～8	2000
	入間東部地区文化財保護連絡協議会	『ふみおか 2』	2000/03
	埼玉県立博物館	『THE AMUSEUM』 第104～106号	2000～2001
	鶴ヶ島市教育委員会	『お寺山遺跡0地点・内野氏屋敷発掘調査報告書』	2000/03
		『鶴ヶ島中学西遺跡 3次調査発掘調査報告書』	2000/03
千葉県	我孫子市鳥の博物館	『我孫子市鳥の博物館調査報告書 第8巻 2000年3月』	2000/03
	国立歴史民俗博物館	『我孫子市鳥の博物館館報 第10号 平成11年度版』	2000/10
		特別企画『伝統の朝顔』/国際展示『日本の伝統朝顔』図録	2000
		特別企画『オランダへわたった大工道具』図録	2000
		特別企画『伝統の朝顔 Ⅲ』図録	2000
		企画展示『天下統一と城』図録	2000
		企画展示『北の島の縄文人』図録	2000/07
	佐原市教育委員会	『佐原市内遺跡発掘調査概報 一平成10年度・11年度一』	2000/03
	市立市川自然博物館	『市立市川自然博物館だより』 第61～66号	2000
		『平成10年度 市立市川自然博物館年報』	2000/03
	館山市立博物館	『ミュージアム発見伝』 No.64～65	2000/03
	千葉県立中央博物館	『研究報告(人文科学) 第6巻 第2号』	2000/03
	松戸市立博物館	企画展『戦後松戸の生活革新』図録	2000
		『まつどミュージアム』 No.8	2000
		『松戸市立博物館紀要 第7号』	2000
茨城県	茂原市立美術館・郷土資料館	企画展『立木村名主高橋家文書にみる領主・名主と村』図録	2000
東京都	(財)日本博物館協会	『卓抜と均等 教育と博物館がもつ公共性の様相』	2000
	(財)利用運送振興会 物流博物館	『平成12年度 会員名簿』	2000
		『物流がわかる本 一現代の物流一 一歴史にみる物流一』	1998/08
		特別展『写真と映像でたどる物流の20世紀』図録	2000
	香妻考古学研究所	『川崎市高津区 薬師院裏遺跡 一第2次発掘調査報告書一』	2000/03
	板橋区立郷土資料館	特別展『いたばし動物ものがたり 一自然・狩猟・見世物一』図録	2000
		特別展『四葉地区遺跡』図録	2001
		『板橋区立郷土資料館年報 第13号 平成11年度版』	2000/09
	江戸東京たてもの園	『江戸東京たてもの園だより』 第15～16号	2000

出版地	寄 贈 者	書 名	発行年月
		『江戸東京たてももの園考古資料一覧 一旧武蔵野郷土館収蔵資料一』	1999/03
大田区立郷土博物館		特別展『空の玄関・羽田空港70年』図録	2000
		『大田区立郷土博物館紀要 第10号 1999年度』	2000/03
		『博物館ノート』No.109~114	2000/03
外務省外交資料館		『外交資料館報 第14号 平成12年6月』	2000/06
儀礼文化学会		『儀礼文化ニュース』第113~117号	2000~2001
ぐにたち郷土文化館		企画展『まちづくり奮闘記 一ぐにたち文教地区 指定とその後』図録	2000
古賀政男音楽博物館		特別展『東海道を近代歌謡毛 一歩く旅と鉄道の旅一』図録	2000
品川区立品川博物館		企画展『民家を造る職人 一昼職』図録	2000
世田谷区教育委員会		『下町風俗資料館 號外』第49~51号	2000
台東区立 下町風俗資料館		『調布市郷土博物館 No.58』	2000/08
調布市郷土博物館		『調布の文化財 第28号』	2000/10
東京学芸大学		『研究紀要 付・博物館実習報告 第5号 1999年度』	2000/03
東京家政学院 生活文化博物館		『東京家政学院生活文化博物館 年報 第9号』	2000/03
東京国立博物館		特別展『日本出土の船載磁器 一朝鮮・渤海・ベトナム・タイ・イスラム一』図録	1993
東京都江戸東京博物館		『江戸東京博物館 NEWS』第36~38号	2000
		『江戸東京博物館要覧』	2000/07
東京都埋蔵文化財センター		『汐留遺跡報告書 II』(5分冊, 付図)	2000
豊島区立郷土資料館		『かたりべ』No.54~57	1999~2000
		『豊島区郷土資料館年報 1998年度 第14号』	2000/03
八王子市郷土資料館		『八王子郷土資料館だより』No.65~68	1999~2000
府中郷土の森博物館		『プラネタリウム 利用案内』第51号	2000
		『あるむせお』第51~54号	2000
		『府中市郷土の森紀要 第13号』	2000/03
		『本宿 内藤清兵衛家文書目録 本宿小野宮 内藤治左衛門文書目録』	2000/03
		『府中市郷土の森 年報 第13号 (平成10年度)』	2000/03
福生市郷土資料室		特別展『明治・大正期の青年像』図録	2001
港区教育委員会		『台場 一内海御台場の構造と築造一』図録	2000/03
		『江戸前の海民 一芝・金杉浦の記憶一』	2000/03
		『港区文化財調査集録 第5集』	2000/03
港区立港郷土資料館		『資料館だより』第42号	2000/03
		『平成11年度 港区指定文化財』	1999/10
文部省大臣官房		『五代目 中村歌右衛門展』図録	2000
早稲田大学演劇博物館		『seven seas 七月号』	2000/07
榊アルク		『全日空機内誌 翼の王国 WINGSPAN』No.371, 373	2000/05
榊クリック		『歴史読本 二月号(第四十六巻 第二号)』	2001/02
榊新人物往来社		『歴史読本 三月号(第四十六巻 第三号)』	2001/03
		『ミュージアム・テーター』No.48~51	2000
榊丹青研究所		『文環研レポート』第14号	2000
榊文化環境研究所		『生物多様性センター ニュースレター 創刊号』	2000
山梨県 環境庁自然保護局生物多様性センター		『身近な生きもの調査2000 案内パンフレット』	2000
		特別展『土偶』図録	2000
釈迦堂遺跡博物館		『山梨県中巨摩郡 昭和町かすみ堤』	2000/03
昭和三十九年教育委員会		『山梨県中巨摩郡八田村 村内遺跡詳細分布調査報告書』	2000/03
八田村教育委員会		『藤村記念館だより』第94~96号	2000~2001
長野県 (財)藤村記念館		『親しむ博物館づくり事業報告書 “蘇れ! 古代の夢とロマン 一見て触れて作って 遊ぶ博物館一”』	2000/03
上田市立信濃国分寺資料館		開館記念特別展『北の縄文都市 三内丸山遺跡展』図録	2000
茅野市尖石縄文考古館		『常設展示図録』	2000
		民俗資料展『郷土の職人 技と道具』図録	2000
茅野市ハヶ岳総合博物館		『静岡県伊東市 桜田遺跡』	2000/03
伊東市教育委員会		『アマリス』No.57~60	2000~2001
静岡県立美術館		『2000年 新収蔵品目録』	2000/10
静岡市立登呂博物館		『研究紀要 1』	2000/08
		『静岡市立 登呂博物館館報 10 一平成11年度一』	1998/03
清水市教育委員会		『清水町史 資料編II(考古)』	2000
沼津市歴史民俗資料館		『資料館だより』145~152号	2000
		『沼津市歴史民俗資料館資料集 16 民俗資料(3) 職人・安達重久さんの 桶づくりメモ』	1999/03
		『沼津市博物館紀要 23』	1999/03
浜松市博物館		『浜松市博物館情報』第95~102号	2000
		『浜松市博物館だより』第69~71号	2000

出版地	寄贈者	書名	発行年月		
藤枝市	藤枝市教育委員会 藤枝市郷土博物館	『藤枝市郷土博物館 文化財年報 一平成10年度一』	2000/03		
		企画展『勝巻橋と東海道』図録	2000		
	舞阪町立郷土資料館	特別展『駿河の武田氏』	2000		
		『藤枝市郷土博物館 年報11・紀要8 平成10年度』	2000/03		
愛知県	安城市歴史博物館	『舞阪町立郷土資料館通信』第58～60号	2000		
		『舞阪町立郷土資料館年報 1999（平成11年度）』	2000/06		
	安城市教育委員会 豊橋市自然史博物館 豊橋市二川宿本陣資料館	『舞阪町史年表(Ⅱ) 2000』	2000		
		企画展『安城の絵馬』図録	2000/04		
	三重県	亀山市歴史博物館	特別展『弥生の絵馬 倭人の顔』図録	2001	
			『博物館ニュース』No.36	2000	
		安城市教育委員会 豊橋市自然史博物館 豊橋市二川宿本陣資料館	『研究紀要 第七号』	2000/03	
			『本達寺藏 木造慶円上人坐像 木造阿弥陀如来立像』	1999/03	
		三重県	亀山市歴史博物館	『豊橋市自然史博物館年報 第12号 平成11年度』	2000/06
				『豊橋市二川宿本陣資料館 年報 平成9・10年度』	2000/03
三重県			亀山市歴史博物館	『郷土資料展VI 田中家 大石家文書』図録	2000
				企画展『江戸時代の亀山館 -「くくしゅう」を学ぼう-』図録	2000
	三重県		亀山市歴史博物館	企画展『近世亀山の武家社会 -石川家中蔵方頭今井家-』図録	2000
				『亀山市歴史博物館たより 第17号』	2000/04
滋賀県	藤原岳自然科学館 大津市歴史博物館 草津市教育委員会 草津宿街道交流館	『東海道亀山宿史料集』	2000/03		
		『亀山領主石川家中 加藤秀繁日記 三』	2000/03		
	滋賀県	大津市歴史博物館	『亀山市歴史博物館研究紀要 第3号』	2000/03	
			『平成11年度 亀山市歴史博物館年報 第6号』	2000/09	
	京都府	京都織女子大学文学部文化財学料 舞鶴市立赤れんが博物館	『藤原岳 第22巻 1999年度号』	2000/03	
			『大津歴博だより』No.40～41	2000	
	大阪府	大阪市立自然史博物館	『草津宿本陣田中家 歴史資料調査報告書Ⅲ（大福帳到来編）』	2000/03	
			『街道文化 Vol.1』	2000/08	
		大阪府	大阪市立自然史博物館	『虫花子(むしかご)』156～160	2000
				『Tachibana Being』Vol.17～18	2000-2001
大阪府		大阪市立自然史博物館	特別企画展『古代オリエントの文明とれんが』図録	2000	
			『舞鶴赤れんがりポート 第7号』	2000	
		大阪府	大阪市立自然史博物館	『赤れんが博物館だより』No.25～27	2000
				第27回特別展『干潟の自然』図録	2000
		大阪府	大阪市立自然史博物館	『大津歴博だより』No.40～41	2000/03
				『ミニガイド No.18 街で繁殖する鳥』	2000/03
	大阪府		大阪市立自然史博物館	『大津歴博だより』No.42～44	1993/03
				『大津歴博だより』No.45～47	1995/03
大阪府	大津市立自然史博物館		『大津市立自然史博物館収蔵資料目録 第25集 大阪地下の巻貝化石』	1993/03	
			『大津市立自然史博物館収蔵資料目録 第27集 大阪府の蛾類』	1995/03	
大阪府	大津市立自然史博物館	『大津市立自然史博物館収蔵資料目録 第28集 青木浩 昆虫コレクション目録』	1996/03		
		『大津市立自然史博物館収蔵資料目録 第32集 兵庫県産魚類標本目録』	2000/03		
愛媛県	愛媛県総合科学博物館	『博物館だより』No.68～71	2000-2001		
		『博物館だより』No.22～24	2000		
	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県総合科学博物館	『研究報告 第5号』	2000/03	
			『年報 平成11年度』	2000/07	
	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県総合科学博物館	平成12年度企画展『愛媛まつり紀行』図録	2000	
			『歴博だより』22～23	2000	
	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県総合科学博物館	『愛媛県歴史文化博物館資料目録 第7集 武家文書目録』	2000/03	
			『年報 平成11年度』	2000/03	
	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県総合科学博物館	『研究紀要 第5号』	2000/03	
			『愛媛県総合科学博物館 研究報告 第5号』	2000/03	
北海道	(財)アイヌ民族博物館	(財)アイヌ民族博物館	『アイヌ民族博物館だより』No.43～44	1999-2000	
			『伝承事業報告書 ポロチセの建築儀礼』	2000/03	
	(財)北海道開拓の村	(財)北海道開拓の村	『北海道開拓の村要覧 平成12年度』	2000/06	
			『北海道開拓の村調査研究中間報告3 北海道文化成立にかかわる母系文化の継承と変容(Ⅲ)』	2000/03	
	帯広百年記念館 沙流川歴史館	帯広百年記念館	『帯広百年記念館紀要 第18号』	2000/03	
			『平取町文化財調査報告書 13 平取町 亜別遺跡』	2000/03	
	岩手県	牛の博物館 前沢町立牛の博物館	『北海道開拓の村要覧 平成12年度』	2000	
			『牛の博物館広報紙 モコ通信』第15～18号	2000	
	岩手県	牛の博物館 前沢町立牛の博物館	『牛のはくぶつかん』No.14～15	2000	

## 文化財保護

### ■文化財専門委員会

#### (委員の構成)

- ・委員長 高橋秀男(植物) 平成11年7月1日～平成13年6月30日
- ・副委員長 稲葉和也(建築) 平成11年7月1日～平成13年6月30日
- ・委員 神沢勇一(考古) 平成11年7月1日～平成13年2月4日
- 三浦勝男(歴史) 平成11年7月1日～平成13年6月30日
- 薄井和男(彫刻) 平成11年7月1日～平成13年6月30日
- 小川直之(民俗) 平成12年6月1日～平成13年6月30日

#### (委員会の開催)

- ・平成12年7月3日/平成12年度事業の概要
- ・平成12年11月27日/平成12年度事業の状況、平成13年度予算について
- ・平成13年3月6日/平成12年度事業の報告、平成13年度の事業の予定について

### ■文化財保護

#### (文化財巡回調査)

町内所在の国・県指定の文化財等(建造物・彫刻・無形民俗文化財・史跡名勝・天然記念物・埋蔵文化財包蔵地)の現状と管理状況を把握するため、現地を巡回し実態を調査した。調査対象は、木造薬師如来坐像、木造伝源坐像、大磯の左義長、西小磯の七夕、大磯高麗山の自然林、庄ヶ久保横穴墓群、釜口古墳、たれこ谷戸西横穴墓群、楊谷寺谷戸横穴墓群、馬場台遺跡の10件であった。

#### (文化財の修繕)

町指定有形文化財のうち木造仁王立像(慶覚院)の修繕に対する補助を行った。

#### (文化財の調査)

町内社寺建築悉皆調査および高米神社神輿堂内の神像群の調査を行った。

#### (町指定有形文化財の保護)

町指定有形文化財18件について町指定有形文化財管理奨励交付金を交付した。交付対象は指定文化財一覧表参照(番号16、17、20～35)。

#### (無形民俗文化財の保護)

無形民俗文化指について民俗資料保存団体交付金を交付した。交付対象は、高麗の山神輿(高麗山神輿保存会)、国府祭(相模国府祭保存会)、大磯御船祭(大磯御船祭保存会)、西小磯の七夕(西小磯七夕保存会)、大磯の左義長(大磯町左義長保存会)、白岩神社の歩射(白岩神社歩射保存会)の6件であった。

#### (文化財防火デー)

町内所在の文化財保有施設について消防署の協力のもと防火設備の点検を行った。

- ・日時 平成13年1月26日(金)
- ・対象 慶覚院、金龍寺、東昌寺

#### (文化財めぐり)

文化財に対する理解と保護啓発のために文化財めぐりを行った。

- ・日時 平成13年3月11日(日)
- ・内容 白岩神社祭礼についてのレクチャーおよび祭礼見学



## (文化財調査報告書の刊行)

大磯町文化財調査報告書第44集『十三塚 運動公園建設予定地内における埋蔵文化財発掘調査の記録I』を刊行した。

## (市町村広域事業(中地区文化財担当者会議))

平塚市、伊勢原市、秦野市、二宮町、大磯町の3市2町において文化財保護・活用に関する事業や埋蔵文化財に関する事業等の啓発・普及を進めるための情報交換および研究協議を行った。

・日 時 平成12年5月16日、9月6日、12月20日

## ■埋蔵文化財

### (出土品整理)

平成9年度に実施した十三塚の発掘調査によって出土した遺物の整理を行った。

### (文化財保存処理委託)

坂田山南横穴墓群から出土した金属製品(杏葉、鐙、耳環)の保存処理を委託した。

・委託先 榑東都文化財保存研究所

### (史跡整備)

県指定史跡釜口古墳のネットフェンス取り付けおよび下草刈りを行った。

### (事前相談)

開発等に伴い、埋蔵文化財にかかわる事前相談に対応した。相談総件数は24件(個人住宅10、宅地分譲・宅地造成10、共同住宅建設2、公共事業2)で、このうち立会指導を実施したものが7件、試掘確認調査を実施したものが6件、発掘調査を実施したものが2件であった。

遺跡の名称	馬場台遺跡37地点
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成12年4月11日～6月22日
所在地	大磯町国府本郷1380-1・2
調査機関	馬場台遺跡発掘調査団
調査担当者	國見 徹
調査面積	105㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	溝4条、住居址3件
発見遺物	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、 鉄滓、鉄製品
遺跡の時期	弥生時代～中世
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	

遺跡の名称	大磯小学校遺跡
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成12年6月3日～7月23日
所在地	大磯町東小磯3
調査機関	大磯小学校遺跡発掘調査団
調査担当者	國見 徹
調査面積	75㎡
調査の原因	耐震性貯水槽建設
発見遺構	土坑12
発見遺物	陶器、磁器、縄文土器、動物遺体
遺跡の時期	縄文時代～近世
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	大磯小学校遺跡発掘調査概報

遺跡の名称	坊地遺跡P地点(試掘)
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成12年9月19日～20日
所在地	大磯町高麗2-28外
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	8㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	なし
発見遺物	土師器、陶器、磁器
遺跡の時期	
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	坊地遺跡(P)地点の試掘調査

遺跡の名称	平塚学園グラウンド(試掘)
遺跡の種類	
調査期間	平成12年9月20日
所在地	大磯町国府本郷699 (旧ジョンソン跡地)
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	鈴木 一男
調査面積	8㎡
調査の原因	グラウンド造成
発見遺構	なし
発見遺物	なし
遺跡の時期	
遺跡の保管	
文献名	平塚学園グラウンド試掘調査の結果報告

遺跡の名称	坊地遺跡Q地点(試掘)
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成12年11月7日～22日
所在地	大磯町大磯121
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	22㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	住居址3軒、土坑2基、防空壕
発見遺物	土師器、陶器、磁器
遺跡の時期	古墳時代～近代
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	

遺跡の名称	下梅姥(試掘)
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成12年12月1日～4日
所在地	大磯町国府本郷1196
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	12㎡
調査の原因	横溝千鶴子記念障害者福祉施設 建設
発見遺構	なし
発見遺物	土師器、陶器、磁器、植物遺体
遺跡の時期	
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	下梅姥における試掘調査

遺跡の名称	馬場台遺跡38地点(試掘)
遺跡の種類	遺跡散布地
調査機関	平成13年1月23日～24日
所在地	大磯町国府本郷1395
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	12㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	なし
発見遺物	土師器、須恵器
遺跡の時期	
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	

遺跡の名称	No.120遺跡(試掘)
遺跡の種類	遺跡散布地
調査期間	平成13年3月16日
所在地	大磯町寺坂668
調査機関	大磯町教育委員会
調査担当者	國見 徹
調査面積	4㎡
調査の原因	宅地造成
発見遺構	なし
発見遺物	土師器
遺跡の時期	
遺跡の保管	大磯町教育委員会
文献名	

■指定文化財一覧表

番号	種類	種別	数量	名称	所在地	所有者	住所	指定年月日
						管理者	住所	指定記号番号
1	国指定	彫刻	1軀	木造薬師如来坐像	寺坂639 (王福寺)	王福寺	寺坂639	昭和2年4月25日
2	"	"	1軀	木造伝了源坐像	高麗1-7-7 (善福寺)	善福寺	高麗1-7-7	平成4年6月22日
						伊東孝昭	"	-
3	"	工芸	1口	灰釉壺 常滑	東小磯394	増田哲弥	東小磯394	平成6年6月28日
4	"	無形民俗 文化財	-	大磯の左義長		左義長保存会		平成9年12月15日
						鈴木健治	大磯1556	-
5	県指定	史跡	1基	釜口古墳	宇前谷原	大磯町	東小磯183	昭和29年3月30日
6	"	"	20基	樋谷寺谷戸横穴群	宇樋谷寺谷戸	樋谷寺	大磯910	昭和41年7月19日
						樋口亮海	"	-
7	"	"	9基	庄ヶ久保横穴群	国府本郷庄ヶ久保	加藤卯之八	国府本郷1335	昭和41年7月19日
8	"	"	37基	タレコ谷戸西横穴群	虫窪字タレコ谷戸	多田賢蔵	国府新宿103	昭和41年7月19日
								-
9	"	無形民俗 文化財	-	国府祭		国府祭保存会		昭和40年10月1日
						柳田直継	国府本郷935	-
10	"	天然記念物	-	大磯高麗山の自然林	高麗山南斜面	高来神社	高麗2-9-47	昭和47年3月31日
						渡辺幸五郎	"	-
11	"	"	-	蘆取神社の社叢林	生沢1401外	蘆取神社	生沢1401	平成4年2月14日
						柳田直継	国府本郷935	-
12	"	"	-	大磯照ヶ崎の アオバト集団飛来地	大磯1398-2地先 岩礁	国		平成8年2月13日
						大磯町	東小磯183	-
13	"	彫刻	1軀	木造地藏菩薩坐像	高麗2-9-48 (慶覚院)	慶覚院	高麗2-9-48	昭和49年7月12日
						秦良淳	"	-
14	"	"	1軀	木造阿弥陀如来立像	高麗1-7-7 (善福寺)	善福寺	高麗1-7-7	昭和57年8月31日
						伊東孝昭	"	-
15	県選択	無形民俗 文化財	-	小磯の七夕祭り		七夕保存会		昭和53年8月25日
16	町指定	古文書	2通	地福寺文書2通	大磯1135 (地福寺)	鈴木東一	西小磯248	-
						地福寺	大磯1135	昭和47年6月14日
17	"	"	1通	二宮家文書	生沢899	櫻井密蔵	"	1
						二宮康	生沢899	昭和48年7月20日
18	"	無形民俗 文化財	-	大磯御船祭		御船祭保存会		昭和47年6月14日
						真間直次	大磯1439	6
19	"	"	-	高麗の山神興		山神興保存会		平成元年10月18日
						高橋昭	高麗2-6-35	25
20	"	天然記念物	1株	社宮神のタブ	国府新宿479	杉山吉永	鎌倉市笹目町6-49	昭和47年6月14日
								7

番号	種類	種別	数量	名称	所在地	所有者	住所	指定年月日
						管理者	住所	指定記号番号
21	町指定	天然記念物	1株	宝積院のカヤ	国府新宿451 (宝積院)	宝積院 鈴木哲夫	国府新宿451 "	昭和47年6月14日 8
22	"	"	-	六所神社の樹林	国府本郷935 (六所神社)	六所神社 柳田直継	国府本郷935 "	昭和48年7月20日 11
23	"	"	1株	諏訪神社の大松	国府本郷547	六所神社 柳田直継	国府本郷935 "	昭和48年7月20日 12
24	"	"	-	稲荷神社の樹林	東小磯406	高来神社 渡辺幸五郎	高麗2-9-47 "	昭和48年7月20日 13
25	"	"	1株	高来神社の シニツケイ	高麗2-9-47 (高来神社)	高来神社 渡辺幸五郎	高麗2-9-47 "	昭和48年7月20日 14
26	"	"	-	高麗ホルトノキ	高麗2-542-28	堀文子	高麗2-3-57	平成元年12月19日 26
27	"	彫刻	1躯	千手観音立像	高麗2-9-48 (慶覚院)	慶覚院 秦良淳	高麗2-9-48 "	昭和47年6月14日 2
28	"	"	1躯	木造阿弥陀如来座像	大磯1004 (大運寺)	大運寺 二見光道	大磯1004 "	昭和51年7月17日 17
29	"	"	1躯	木造弘法大師坐像	大磯1135 (地福寺)	地福寺 櫻井密巖	大磯1135 "	昭和51年7月17日 18
30	"	"	1躯	石造地藏菩薩立像	国府本郷513 (西長院)	西長院 鈴木正明	国府本郷513 "	昭和51年7月17日 19
31	"	"	3躯	木造觀世音菩薩 及び二天立像	国府新宿767 (蓮花院)	蓮花院 湯口敬昭	国府新宿767 "	昭和52年4月1日 20
32	"	"	1躯	木造阿弥陀如来座像	寺坂732 (迎接院)	迎接院 鈴木教夫	寺坂732 寺坂658	昭和52年12月15日 21
33	"	"	1躯	木造薬師如来立像	大磯910 (楊谷寺)	大磯910 樋口亮海	大磯910 "	昭和52年12月15日 22
34	"	"	2躯	木造仁王立像	高麗2-9-48 (慶覚院)	慶覚院 秦良淳	高麗2-9-48 "	平成11年10月22日 38
35	"	工芸	1口	国府新宿梵鐘	国府新宿451 (宝積院)	国府新宿区有 鈴木哲夫	国府新宿451	昭和47年6月14日 4
36	"	考古資料	17点	大磯町出土考古資料	東小磯183	大磯町 教育委員会	東小磯183	昭和47年6月14日 5
37	"	"	3点	馬場台遺跡出土品	東小磯183	大磯町 教育委員会	東小磯183	平成3年9月20日 27
38	"	重要建造物	-	嶋立庵	大磯1289	大磯町	東小磯183	昭和58年7月1日 24
39	"	"	3棟	旧島崎藤村住宅 -静の草屋-	東小磯88-9	大磯町	東小磯183	平成6年12月21日 37
40	"	史跡	-	嶋立澤	大磯1289	大磯町	東小磯183	昭和58年7月1日 23

## 町史編さん

平成3年度に始まった事業で、町の歴史の変遷過程を顧みて将来に向け、町民に親しまれる自治体史を順次刊行していく。12年度は前年に引き続き、今後刊行する町史の編集作業を進めた。また、現存する当町に関係する歴史資料の所在確認・収集に努めた。

### ■町史編さん組織体制図



### ■町史編さん委員会

(委員の構成)

- ・委員長 深町 宏 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- ・副委員長 福谷 潤 平成11年4月1日～平成13年1月31日
- ・副委員長 養島 格 蔵 平成13年2月1日～平成13年3月31日
- ・委員 熊木 博 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 清水 弘 子 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 奥村 浩 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 和田 正 洲 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 松本 元 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 鈴木 昇 平成11年4月1日～平成13年3月31日
- 小泉 光 雄 平成11年4月1日～平成13年3月31日

(委員会の開催)

- ・平成12年11月24日／編さん事業の報告、計画について

### ■町史編集委員会

(委員の構成)

- ・顧問 鈴木 良 一 平成12年4月1日～平成13年3月31日
- ・委員長 松本 元 平成12年4月1日～平成15年3月31日
- ・委員 土井 浩 平成12年4月1日～平成15年3月31日
- 和田 正 洲 平成12年4月1日～平成15年3月31日
- 近藤 英 夫 平成12年4月1日～平成15年3月31日

(委員会の開催)

- ・平成12年11月16日／各部会の編集進行状況について、平成13年度予算について
- ・平成13年3月29日／平成13年度の予算概要と事業計画について

### ■部 会

編集委員会は次の5部会から成る。すでに、自然部会は別編自然刊行の平成8年3月に解散した。各部会は編集委員会に属し、それぞれの執筆委員・資料調査員が資料収集を行っている。また、編集委員は集められた資料をもとに執筆委員と共に担当する町史の執筆及び編集にあたっている。部会は時代と分野で分かれている。各部会の概略と担当した図書は次のとおりである(一覽表の書籍Noを【 】中に示す)。

(前近代部会) 古代(紀元3~4世紀から平安時代まで)、中世(鎌倉時代から小田原北条氏滅亡まで)、近世(徳川家康の江戸入府から廃藩置県まで)から成る。文書資料調査はほぼ終了し、その資料を資料編2巻に収めた。部会では通史編刊行に向け作業を進めている。【1・2】

(近現代部会) おおむね明治4年の足柄県成立から第二次世界大戦終了までの資料を資料編2巻にまとめた。次に、第二次世界大戦終了から平成元年までの資料編の編さんに取り掛かる。【3・4・20】

(自然部会) 動物・植物・地層・地質などの項目から大磯町の歴史をふまえ別編自然として編さんした。ほかに、別編に掲載できなかったデータを自然データ集として発刊した。【5・19・21】

(民俗部会) 大磯町の生活や文化を別編民俗として編さんする。別編の編さんに先駆け、地域の伝承について、聞き取り調査した結果を地区ごとに整理し報告書として刊行した。【6・7・8・9・10】

(考古部会) 町内から出土した遺跡・遺物を考察し、別編考古として編さんする。郷土資料館には埋蔵文化財出土品が未整理のまま保存されており、主にそれら資料を整理、図化石考古学の観点から大磯の歴史を別編考古として刊行する。

## ■刊行物

- ・『大磯町史4 資料編 近現代(2)』 A5版 800頁 (平成13年3月刊)
- ・『大磯町史研究』第八号 A5版 118頁 (平成12年3月刊)

## (既刊書籍一覧)

- 【1】『大磯町史1 資料編 古代・中世・近世(1)』 A5版 820頁 (平成8年3月刊)
- 【2】『大磯町史2 資料編 近世(2)』 A5版 750頁 (平成11年3月刊)
- 【3】『大磯町史3 資料編 近現代(1)』 A5版 750頁 (平成11年7月刊)
- 【4】『大磯町史4 資料編 近現代(2)』 A5版 800頁 (平成13年3月刊)
- 【5】『大磯町史9 別編 自然』 A5版 790頁 (平成8年3月刊)
- 【6】『大磯町史民俗調査報告書一 国府の民俗(→)虫窪・黒岩・西久保』 B5版 70頁 (平成5年3月刊)
- 【7】『大磯町史民俗調査報告書二 国府の民俗(→)月京・生沢・寺坂』 B5版 194頁 (平成6年3月刊)
- 【8】『大磯町史民俗調査報告書三 国府の民俗(→)国府本郷・国府新宿・石神台』 B5版 256頁 (平成7年3月刊)
- 【9】『大磯町史民俗調査報告書四 大磯の民俗(→)東小磯・西小磯』 B5版 246頁 (平成9年3月刊)
- 【10】『大磯町史民俗調査報告書五 大磯の民俗(→)大磯・東町・高麗』 B5版 244頁 (平成10年3月刊)
- 【11】『大磯町史研究』創刊号 A5版 90頁 (平成4年3月刊)
- 【12】『大磯町史研究』第二号 A5版 114頁 (平成5年3月刊)
- 【13】『大磯町史研究』第三号 A5版 106頁 (平成6年3月刊)
- 【14】『大磯町史研究』第四号 A5版 110頁 (平成7年12月刊)
- 【15】『大磯町史研究』第五号 A5版 108頁 (平成9年3月刊)
- 【16】『大磯町史研究』第六号 A5版 100頁 (平成11年3月刊)
- 【17】『大磯町史研究』第七号 A5版 98頁 (平成12年3月刊)
- 【18】『大磯町史研究』第八号 A5版 118頁 (平成12年3月刊)
- 【19】『大磯町内に分布する更新統二宮層産の化石』 B5版 98頁 (平成6年3月刊)
- 【20】『大磯町史新聞記事目録第一集 横浜貿易新報 明治編』 B5版 145頁 (平成7年3月刊)
- 【21】『大磯町史9 別編 自然データ集』 B5版 217頁 (平成9年3月刊)

# 研 究 報 告

# 盆の行事 一 盆棚・砂盛り

・鶴飼レイ子 北村和江 熊沢聖子  
後藤ひろ子 滝沢すみ子 中村ふじ  
望月定子 渡辺信子

## 1. はじめに

私たち「摘み草の会」は自主学习グループとして、昭和58年(1983)に大磯町の歴史や民俗などを勉強するために結成した。

これまで参加した文化祭では、平成7年(1995)「国府祭について」、同8年(1996)「道とその周辺」、同9年(1997)「道祖神(左義長)」、同10年(1998)「大磯の寺と神社」、同11年(1999)「100年前の大磯」を発表・展示した。20世紀最後の平成12年(2000)は、先祖に関わりの深い「盆行事」について取り上げた。

お盆の期間は4日間と短いため、平成10年(1998)に大磯・国府地区の「盆棚(精霊棚)」「砂盛り」の撮影を行なった。また、平成12年には大磯と平塚市金目地区の「盆棚」「砂盛り」、秦野市南矢名瓜生野地区の「百八松明」と「砂盛り」、三浦市初声町の「三戸の精霊流し」、中井町の「送り団子」などの写真撮影・聞き取り調査を少ない人数で行なった。特に飛び込みで個人のお宅におじゃました時でも、親切にお話をさせていただき大変参考になった。

なお、この企画をする動機になった「砂盛り」の写真は沢山撮ったが、広範囲のため各市町村史や民俗調査報告書なども参考にした。報告書などはいふ年代が古いものもあるが、これらを含め私たち先祖より連綿と引き継がれてきた伝統・風習を垣間見ることができるだろう。

オシロサン、スナモリ、オルスイサン、ムエンサンなどの意味をあらためて考えて頂ければ幸いです。!

## 2. 盆行事について

神奈川県の各地域と大磯町の盆の行事について調べてみた。8月13日～16日に行なうところが多く、「盆棚」は県内のどの地域も大差はない。座敷の一隅に「盆棚」を作るが、樽を2個置いて戸板を渡し(現在はテーブルが多い)、その上にマコモなどで編んだゴザを敷く。「盆棚」の左右に新しい竹を立て、縄を張り、そこに根の付いた生姜・青い稲の穂・小豆・ほおずきなどを下げる。正面には十三仏や仏画の掛け軸を掛ける。棚の上には位牌・

(※摘み草の会)

牛・馬・蓮の造花・生花・初物野菜・果物・蓮の葉の上に刻んだナスを供える。ミソハギを束ねた物。棚の下にはムエンサン(無縁仏)の供物。ただ、違いは、仏壇は空になったので扉を閉めるところと、オルスイサンがいるからとお茶や食べ物をお供えする地域・家があること。しかし、都会では野菜を吊り下げることもなくなり、大分簡素化されてきた。大磯の農村地域では、昔のようにまだ行なっている家もある。

「砂盛り」は神奈川県における最も特徴的なもので、家の門口に土・砂などを盛り、竹筒を3本から数本立てて花生け、線香立てにする。ここは迎え火・送り火を焚く場所でもある。湯河原町、真鶴町、津久井町、城山町、愛川町、相模湖町、藤野町、相模原市北部、三浦半島、川崎市西北部を除く地域で作られている。「砂盛り」の分布を見ると、神奈川中央部を東西に帯状に分布しているのが分かる。これは勝手な推測だが、街道に関係があるのではないだろうか。平安時代以前の東海道は、今の道筋と違ってほぼ県内中央部を東西に走っていた(足柄峠～南足柄～小田原～伊勢原～海老名～町田～川崎に駅が置かれていた)。ここを沢山の人々が往来することで、色々なものが伝承されていたのではないだろうか。

8月15日は「仏様の買い物日」といって、ほとんどの地域で弁当と称して、小豆飯のおにぎりを「盆棚」に供えている。買い物へ行く場所は天竺であったり、秦野では十日市場へ行くなど地域に近い場所を指して言われることも多い。また、8月16日の「送り団子」は「砂盛り」に挿したり、昔は川に飾り物と一緒に流したが、特に中井町では昔と同じように家に近い公道に3個や5個の串団子と蓮の造花を沢山挿してあり、とてもきらびやかに先祖の霊を送り出している。

今回、調べ始めて知ったのだが、新盆の時、かけ袋とか三角袋といって、白い三角の布に米を入れ、草履・扇子・お小遣いを麻ひもで結わえて寺に納める習いがある。これは、寺より言われる場合と、寺そのものに慣習が無くとも地域や家により行なわれている事例が判明した。大磯では数少ないが、各地域にみられた。お盆の行き帰りに必要な食料と履き物、夏は暑いので扇子、小遣いなど、この世にいる者の思いやりなのか。

### 【事例1】大磯町黒岩

#### ◇8月13日

- ・墓参りをする。墓は香の花、生花。
- ・ツジ(砂盛り)を作る。赤土、台型、青竹4本を立てる。盆花、生花。昔は子供が作った。



- ・精霊棚を作る。箱に戸板を乗せ、ゴザを敷いた上に飾る。十三仏・仏画の掛け軸、位牌、綱を張り根付き野菜を下げる。牛馬、アライアゲ(ナスの賽の目切り)、東ねたミソハギ、盆花、左右に灯籠。供え物は普通に作った物、夕飯はめん類(牛馬の鞍のかわりにするため)。

- ・仏壇の扉は閉める。
- ・昔は精霊棚の下にムエンサンを供えた。現在はしていない。
- ・迎え火は夕方1回(13日のみ)行う。
- ・新盆は白い提灯を7日頃から下げる。今は盆が終わると墓で燃すか、寺へ納める。
- ・僧侶の御棚参り(棚経)が行われる。

#### ◇8月14日

- ・精霊棚には家人と同じ食べ物を供える。
- ・仏様が野まわり(畑まわり)に行く日。仏様の足をカマで傷つけるといけないので畑仕事はしない(朝飯まへの朝づくり)。
- ・若い衆(奉公人)を休ませるため(家づくり)。

#### ◇8月15日

- ・仏様の買い物日。仏様がささげのおむすび弁当(うるち米)を持って買い物に行く。

#### ◇8月16日

- ・昔は墓にお土産として駄菓子や餅を供えた。
- ・送り火を焚く。

#### ◇その他

- ・新盆の時、白い三角の袋(かけ袋)に米を(4合・1升4合・2升4合)入れ、扇子・草履・小遣い(六道銭)を麻ひもで結わえたものを寺に納める(普通の時はお金)。
- ・賽の目に切ったナスは施しのために餓鬼や仏様に食べさせるため、キュウリやニンジンでもよい。ただし、においのきついものはだめ。

### 【事例2：平塚市北金目】

#### ◇準備

- ・お盆の1週間前にお墓の掃除をする。
- ・お盆の3日前に金目川よりフジサン(砂盛り)用の砂をとってくる。
- ・青竹を14本用意する(フジサン4本、お墓10本)。
- ・蓮の葉(里芋の葉)を12枚用意する(フジサン1枚、お墓10枚、精霊棚1枚)。

#### ◇8月12日

- ・フジサンを作る。初めに普通の土で形をつくり、その上に砂をかけて形を整える。去年の造花の蓮華・ミソハギ・香の花・線香立て(青

竹4本)・馬(キュウリ)と牛(ナス)を作る。馬と牛の足はオガラで作る。13日は馬に乗り早く来るように、16日は牛でゆっくり帰るとの意味による。

#### ◇8月13日(宵盆)

- ・オショロサマ(精霊棚)を作る。提灯を掲げ(新盆は白い提灯)、十三仏の掛け軸を掛け、位牌を並べる。ナスとキュウリを刻み葉にのせ、ミソハギを3本~5本束ねてお皿に置く。スイカ、サツマイモなどの初物やお中元で頂いた品物を飾る。また、入りばた餅(おはぎ)を供えるほか、朝・昼・晩に食べ物も供える。
- ・お墓参りする。10時頃。ナスを刻み、葉にのせて供える(無縁仏の墓にも供える)。
- ・お寺へ祝儀袋を包む。
- ・迎え火を毎夕焚く(13日-迎え火、14日-ご馳走火、15日-送り火)。
- ・砂盛りに近所でお互いに線香をあげる(夕方5時頃)。
- ・オルスイサン(仏壇)にもご飯を供える。

#### ◇8月14日

- ・坊さんの御棚参り。寸志を包む。
- ・ご馳走火を焚く(夕方)。

#### ◇8月15日

- ・団子を備える(三角形)。
- ・送り火を焚く(夕方)。

#### ◇8月16日

- ・午後盆棚を片づける。

### 【事例3：中井町鴨沢】

#### ◇8月13日

- ・精霊棚(オショロサマ、ボンダナ)を作る。牛と馬には手綱としてソーメンを掛ける。基本的にはどの地域も飾り物・供え物は同じ。ムエンサンは昔は棚の下に供えていたが現在は祀っていない。仏壇はルスイバンと言われ、里芋の葉にご飯を入れ供える。
- ・砂盛りを作る。砂盛りは仏様の休憩所であるといわれている。川砂で台型。竹筒に去年の造花の蓮華や生花を挿し、砂の上には賽の目に切ったナスを入れた葉を置く。昔は砂盛りに近所で互いに線香を上げた。
- ・迎え火を焚く(13日の夕方だけ)。
- ・新盆の場合には、盆の期間中は白い提灯を軒先に掲げる。16日の夕方に屋敷か墓、または寺で燃す。
- ・墓参りする。花と線香を供える。

#### ◇8月14日

- ・入りばた餅を作る。

- ・坊さんの御棚参りはない。

#### ◇8月15日

- ・仏様の買い物日なので弁当を持たせる。弁当は赤飯のにぎり数個。

#### ◇8月16日

- ・送り火をする。昼頃から3時頃までに砂盛りのところで行う。
- ・送り団子は3個串につけ、家に近い道の入り口に造花の蓮華と一緒に挿して置く。

### 【事例4：秦野市南矢名瓜生野】

#### ◇準備

- ・お墓の掃除を行う。竹筒を用意する。
- ・新盆のときは、提灯を早く(初旬)から揚げ、16日まで掲げてどんどん焼きのとき燃す。

#### ◇8月13日

- ・精霊棚を作る。位牌を置き、十三仏の掛け軸を掛ける。ナスとキュウリの牛と馬、ミソハギ、野菜や果物の初物を供える。また、綱を張りホオズキや秋の野菜などを吊す。
- ・ムエンサンは精霊棚の下に作る。
- ・オルスイサマと言い、棚に全部出した後の仏壇は、扉は開けておき、ご飯を供える。
- ・ツジを土で作る。去年の造花の蓮華を挿す。ナスの刻んだものを葉に入れツジに供える。ツジには線香を近所で互いに供える(期間中毎夕)。
- ・墓参りをする。墓にはたくさんの線香を上げ、寺には寸志をわたす。
- ・迎え火は、期間中毎夕玄関の所で焚く。

#### ◇8月14日

- ・坊さんの御棚参りがある。
- ・おはぎ(はたまち)を供える。

#### ◇8月15日

- ・仏様の買い物の日(十日市場に買い物に行く)。朝早くに昼の弁当のために赤飯のむすびを5個作る。

#### ◇8月16日

- ・送り団子を作る。おがらに団子を5個つけ、川の側に挿す。ご飯、ジャガイモやカボチャの煮物と一緒にそえる。昔は川に流した。
- ・夕方に送り火を焚く。

### 3. 瓜生野の百八松明(ひやくはつたい)

秦野市南矢名瓜生野地区に昔から「百八松明」という8月14日に行われる盆行事がある。「秦野市史民俗編」には【この盂蘭盆会には豊作祈願の護符として虫封じのお札が畑や田のあぜ道によく立

ててあったと言われている。このお札はずいぶん遠くから受けて登ってきた人が多かったとも伝えられている。またこの「百八松明」の由来ははっきりとしないが、煩惱という、人々にはその身や心を悩ます多くの欲望がある。人間が背負っている数々の罪業を、百八松明に数えあげて「百八煩惱」といい、この心の闇を照らし、この世の闇を照らし出す光明として権現山山頂に高く百八松明をたきあげるのだという】とある。

この行事は明治の中頃一時中断したが、その時伝染病がはやり、地区で数人の死者が出たため、これは「お精霊のたたり」だといい、その後すぐ復活したということである。

### 【百八松明の行程】

#### ◇松明を作る

- ・14日に龍法寺の前の空き地で子供から年寄りが集まって、ワラで長さ2メートル、太さ30センチほどの松明を70本作り権現山に上げる。また、龍法寺の前と弘法山(権現山)の中腹とに幾つものワラの山を盛り上げる。

#### ◇寺にて松明点灯のための読経(18:00~18:30)

- ・代表者2人がロウソクをいただく(種火)。

#### ◇山頂にて点火(19:10)

- ・積み上げたワラに点火し、燃え上がると松明に火を移す。闇の中、子供を先頭にして燃えている松明を肩に担ぎ次々に下りてくる。下の龍法寺につくと同時にワラの山にも点火される。

#### ◇松明をぐるぐる回す

- ・若者たちに担がれた松明は下の龍法寺横に着くと、ハンマー投げのようにぐるぐる回す。火の粉が飛び散り、またゆるい松明はスッポ抜けて飛んで来るが、一番のハイライトである。まさに煩惱を振り払うが如しである。

#### ◇盆踊り(20:00~)

- ・松明の行事が終わると、瓜生野盆踊りが女の人たちに次は踊られる。この踊りは、初めは素踊り、次は手拭いを持つ「ささら舟」、扇を持って踊る「おっちょこちよいのちよい」。このように珍しい三部の構成である。

### 4. 三戸の精霊流し

三浦市三戸の神田・丸北・上谷戸の地区では、毎年8月16日早朝に、麦藁で作った長さ5~6メートルの3艘の舟に仏前の供物を積み、沖に向かい霊を西方浄土に返す盆送りの行事「精霊流し」が行われる。神奈川県指定無形民俗文化財。

16日の朝6時から浜に出て、神田地区はワラだけで、丸北地区と上谷戸地区は青竹を骨組みにして麦藁を積み重ね、縄でくくって作る(1)。その上に笹竹を数本立て、縄を張り、提灯をぶら下げる。オシヨロサマもつなぎ合わされ1メートルぐらいの長さにして軸先にたくさん立てられる。大人や子供たちにより浜に集められた供物を積み込み完成である。

舟は縄で6枚の板子とつながっている。朝8時に僧侶の読経と地区の人たちの御詠歌に送られて舟出。6人の少年たちにより沖へ引かれていく。祖霊はあの世へ…現在は沖合いで燃すが、以前はそのまま自然の成り行きに任していた。

精霊送りを済ませた少年たちは、リーダー(大将)の家に帰る。風呂が沸いているが、先にオミシメサマを入浴させてから、順次入浴する。その後、ご馳走になる。

### 【オミシメサマ】

20センチぐらいの木で人の顔に作り、綺麗な着物を着せ、輪番の宿になる大将の家に祀られている。

### 【精霊棚】

三浦地方は特異の精霊棚の飾り方がある。それは雑貨屋で“おしょうさま”を一对(麦藁を長さ20センチ・幅4センチほどに切って束ねたものに色紙を巻き、花形を添え、両端にオガラを付け、これに色紙のギザギザを貼り付けたもの)買ってきて、牛・馬(ナス・キュウリ)に乗せ棚に飾る。その他の飾りでは、今でも仏壇の前に綱を張って根の付いた初物野菜を下げ、また同じ供物を墓の前にも下げる。夕方になると、盆提灯を下げてお

墓参りをし線香をあげる。期間中の朝と晩、ナスの刻んだものを墓にあげる。また、無縁仏のために棚の下に供物をあげる。なお、三戸では迎え火、送り火はしない。

### 【新盆】

新盆の家では、細い青竹を十字に結び、縦と横の竹の先を綱でつなげる。縦の竹の先端に杉を指し込み、横の竹の一方に白い提灯を下げ庭に立てる。8月1日より盆の期間中毎夜点灯する。16日に精霊舟に乗せ流す。また、三角に縫った白い袋にお米を入れ、わら草履(今は雪駄)を添えて寺に供える。これは湘南地方で行われているかけ袋と同じである。

### 5. おわりに

近年、人間の命が軽んじられ、簡単に人を傷つける事件が発生しているが、なぜなのか。物は溢れているが反面人の心は満たされていないのか。生活様式も我々子供の頃と比較すると、数段の変化を遂げてきた。この世紀末の世に祖先が残り、伝えてきた諸行事の中、亡き人の供養のみならず、今を生きている人たちの心のつながりとして、あえて盆の行事を取り上げてみた。

21世紀に向けて伝承されていくのか、消えていくのか、あらためて感慨深く思う。

色々ご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

〔註〕(1) 舟を作るワラは、現在厚木から買い求めている。



精霊棚(大磯町南下町)



精霊棚(大磯町西小磯)



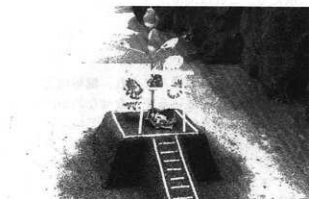
ムエンサン(大磯町西小磯)



スナモリ (大磯町西小磯)



迎え火の跡 (大磯町国府本郷)



ツカ (大磯町国府本郷)



フジサン (大磯町生沢)



スナモリ (中井町鴨沢)



ツジ (大磯町黒岩)



スナモリ (中井町鴨沢)



送りだんご (中井町鴨沢)



ツジ (秦野市南矢名)



百八松明の準備 (秦野市南矢名)



百八松明 (秦野市南矢名)



瓜生野盆踊り (秦野市南矢名)



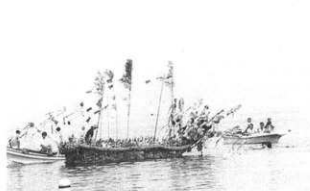
供物を集める (三浦市三戸)



舟の準備 (三浦市三戸)



読経と御詠歌で舟を送る (三浦市三戸)



精霊流し (三浦市三戸)

ヲ腹キ漁夫ハ妻隣ナリ

家屋

商民ハ小田屋寺又ハ瓦葺ノ屋ニ住シ農民ハ葺葺ノ屋ニ住ス其間取方

ハ第一圖ノ如ク漁民ハ小田屋葺ノ陋舎ニ住居ス第二圖ノ如シ

飲料水

(因省略)

飲料ニ用ユル水ハ井戸水ニシテ井戸ノ構造ハ鎌倉地方ト同ク深底ヨリ上朝込テ

角石ヲ積上ケ又ハ凹石ヲ築築セシハ地質薄弱ナレバ之ヲ防ク為ニ設クシモノニ

テ其上部ノ側ニ丸太木ヲ拵楯ニ或ハ角石ヲ凹形ニ成シム第二圖第四圖ハ乃チ

井戸構造ノ断面ヲ示ス

食物

商民ハ米飯ヲ農民ハ米粟ノ混合飯ヲ漁民ハ米麦ノ混合飯ヲ常食トシ其ノ

副食物ニ魚貝海藻ト蔬菜ヲ用ユ

燃料

落葉(松葉)流木(浪ノ為ニ打上モノ)畑作物ノ枯幹及ヒ株根、薪等ヲ用ユ

運搬具

小荷車、荷馬車、天秤、イチコ羅ニテ作る(因省略)、ヤセシマ(因省略)、草刈籠

(原文ニ規ケシ藁製ノ品ハ方言名ヲ知ラサルニヨリ仮ニ藁製カト見テ推シテシム)

宗旨

漁民ハ海神ヲ祀リ農工商戸ハ道祖神及ヒ稲荷ヲ祭ル

子供ノ遊戯

漁民ノ子供ハ海行ニ集リ競ラテ玩具ノ小舟ヲ浪ニ浮ベテ帆走ノ工合ヲ評ス(此小舟

ハ父兄ノ手作ニシテ丸木ヲ鑿チテ船身トシ中央ニ柱ヲ建テ帆ヲ懸タルモノ)又夕

磯ヲ涉テ小魚ヲ釣り或ハ手捕シテ後子砂上ニ團座シ流木ヲ焚テ鰯魚ヲ

火中ニ投シ鰯子チ之ヲ食フ又ハ砂上ニ團座シテ小石ヲ玩ラテ「オテダマ」ノ

方音

アルカ(アンメイ)行ク(アクベイ)イツイクノカ(イツイクノサヨ)「サヨ」ハ凡テ語尾ニ用ユ

海濱(スカ)父母子カチヲ指テ「ワレ」ト呼フ

レバ農夫ノ細ヨリ纏リ來テ置キシモノナラン想ニ鎌倉屋下ノ石塔ナルベシ懸等ヲ見  
テ伊藤邸南方ノ小路ヲ行ケルニ二十ノ人夫漢方ヨリ石ト拵ニ入レ邁フニ逢フ  
〈因聲略〉

其登ヲ視ルニ「田」ノ字ニ形ニ巖臺ヲ曲クシモノニテ第四圖ニ示ス如ク誠ニ簡便ノ作方  
ナリ小路ヲ過キ松面ノ様テ道手ノ砂山ニ登レバ頂ニ納屋ナリ之ヲ覽ルニ異株  
ノ構造ナレバ先ツ後面ノ縁ヲ圍寫(第二圖)シテ其頂面ニ廻レバ入口アリ之ニ於テ前  
面(第三圖)ヲ寫シテ屋内ニ入リ内側ヲ視ル際何方ヨリカ材運來テテカガ動  
ヲ窺フ次テ山トノ下ヨリ漁夫一人入來テ誰何ス之ニ對テ予ハ答ヘ曰ク大磯遊在  
ノ者ニテ海邊遊歩ノ途ニ過テ此處ヲ視テバ學問上ノ點ニ見届ナリト述ルニ  
彼レニ安心シテ休テ傍テ彼人ト問答ス左ノ如シ

問 当舎ハ何ノ爲ニ設シヤ

答 漁具ノ置場ニ建設ス

問 舎号ハ何ト称スヤ

答 納屋

問 当舎ヲ建築ス何材ヲ用シヤ次ニ建方ハ奈何ニセシカ

答 当舎建テトスルニ礎ミ先ノ第一ニハ砂中ニ敷ケテ孔ヲ掘リ根△尺許ニ  
丸太ヲ建テ桁梁等ヲ加ヘ棟木ヲ載セ層形ヲ造リ其材ニハ果丸太及丸竹  
ヲ用ヒ層及ヒ側壁ノ部分ニハ栗皮ヲ用ユ

問 屋根ヲ葺クニ粟ノ根株ヲ外面ニ頭ハシ又々側壁ヲ覆フニ粟皮ヲ削シ  
マニスルハ何ノ譯合ナルヤ

答 屋根ヲ葺クニ根株ヲ外面ニ出セルハ水コケ能クシテ腐ラザル爲メ又々側  
壁ヲ覆フニ粟皮ヲ削シマニスルハ久シキニ堪ヘシムル爲ナリ

問 当舎号見籠番屋ト思シニ左ニ非シテ漁具置場ナレバ夫ノ備フルモノハ何  
品ナルヤ

答 当舎ハ籠番屋ニシテ室内ニ積メルハ繩及ヒ麻ホニテ造リシ地巾繩及ヒ

細布ノ袋繩ナリ

問 細布網ハ何魚ヲ獲ルニ用ユルカ

答 白魚(方言シラス)ヲ漁スルニ用ユ

問 地巾網ハ何魚ヲ獲ルニ使フヤ

答 鱈魚ヲ漁スル爲ナリ

問 当地ニテ麻網ヲ染ムル科ニ何ノ汁ヲ用ユルヤ

問 柏皮ノ煎汁ヲ以テ染ムルナリ

問 地巾網ニ用ユル繩ハ何品ナルカ

答 稲藁ノ葉ヲ去リシ草ニテ繩ニ纏リシモノナリ

問 地巾網ノオモリ石ヲ繩ニテ纏メル仕方ヲ見ケシ

答 易キ業ナリト云ヒツ、砂中ヨリ石ヲ拾ヒ置繩ヲ以テ纏ミ付テ直ニ一個ヲ呈ス

問 平常遊静ナル海ハ海行ニ置ケト風雨ノ兆アル節ハ之ヲ防シ爲メ當舎

後方ノ松林傍原ヘ揚ケ置キ恆ニモヲ以テ覆ヘリ其舟ヲ進出ヨリ曳上ル仕

方ハ先ツ舟底ニ「スラ」ヲカヒ次ニ船ニ繩ヲ縛リ山上ニ居ル數人ヲ引クヤ

舟端ニ居ル數人ハ繩又ハ側ニ肩ヲアテガイフ、押上テ遂ニ砂山ヲ越テ

松林中ニ擲シム

問 シケノ際高浪ハ當舎運打上ルアリヤ

答 非常ノ「シケ」ナレバ當舎運浪ヲ延滞シ次テ浪砂ヲ吹テ松林ヲ被フアリ

問 強風ノ時ハ砂ヲ何フ方迄吹キ飛スヤ

答 停車場附近ノ地迄モ延滞シ就中津洋ハ一層烈ケレバ海辺ヘ向ヘル松樹ノ枝  
幹ハ之方爲メ掃蕩セラル

問 以上ノ如ク問答シテ知得スルニ暮サレバ厚謝シテ漁夫(別列ノ砂山ヲ降ツテ海行ヲ歩ム  
數)ニ延ヒ後方ヲ顧レバ納屋ノ地位ヲ望ムニ適當ノ距離ナルニヨリ砂上ニ佇ミ其真  
況ヲ圖寫(第二圖)シテ鳴響ノ汀ニ至リ玩具用ノ小舟ヲ拾フテ寓舎ニ帰ル

冠物

大磯土俗ノ概略

商民ハ帽ヲ用ヒ農民ハ笠及ヒ手拭ヲ被リ漁民ハ竹皮笠ヲ被リ或ハ手拭ヲ  
鉢巻ニ爲ス

衣服

商民ハ普通ノ衣服ニシテ農夫簡短短衣ト股引ヲ用ヒ漁夫ハ筒袖ノ長衣ニ  
三尺帶ヲ勞動ノ際ハ腰裝ヲ着シ又ハ裸裎ナリ

雨具

商民ハ傘ヲ用レド農漁ノ二民ハ笠ヲ着ス

履物

商民ハ雷駄、駒下駄、足駄等ヲ用レド勞動者ハ素跣ニシテ農民ハ「ワラジ」、足中

〈図省略〉

又夕砂上ニ長繩敷テ船ヲセリアリ之ヲ覺ルニ其末端ニ大ナル針アリテ「ワギ」アルト「ナキ」ノ種ニシテ針ノ樽付ヨリ一尺許ノ間ハ「ハリガ子」ヲ巻リテ圖ニ示スガ如シ

〈図省略〉

運「漁夫」ノ来ルアレバ此針ハ何魚ヲ獲ルニ用ユルヤト問ヘバ彼レ曰ク鯨ヲ漁スル「ハハ」ニ「ニ」ニ「丈」數目アリ其樽付「ニ」ハ「リガ子」ヲ巻テハ喰ヒ切レザル為メ何ナレバ鯨魚ノ腹ハ鯨ノ如ク之ヲ防ク云々其針「ニイカ、サバ、ノ」魚ヲ用ユ一「干日」

〈図省略〉

午後西小磯ノ畑中ヲ過ルル村童ノ「牙」ヲ見ダレバ其故ヲ問フ彼レ曰ク之ヲ却リテ密ニ「毒」ヲ追ヒテ「調理」スル用ニ備フ云々二十五日

熊渡氏來テ過日依頼ノ「土」樽ヲ贈ラル其目左ノ如シ

- 一 一石 一個 旧持主 北下町 道徳橋境内
- 一 サ、ラ、盆、請、用、一ツ 同 同 石倉坐太郎
- 一 鯨スリバリ 一ツ 同 同 尾崎ニ四郎

〈図省略〉

- 一 碇 一挺 旧持主 南下町 一百七
- 一 モリ 一挺 附先手磯邊ヲ 旧持主 北下 山下登七

〈図省略〉

次ニ子カ過日海辺ニテ拾ヒシ有孔石ヲ「譯」熊渡氏ニ尋ヌルニ左ノ答ヲ為ス  
當郷住民ハ其種「二」種ニテ「全」葉新羅ノ為メ海濱ヨリ形ノ重シキ丸石ヲ拾ヒ來テ小孔ヲ穿テ糸ヲ通シテ後手携ヘテ小磯宇貫村社ニ詣テ宮ノ扉又ハ鴨居ニ懸ケルナラバ思フニ其石ナラン云々  
午後磯邊泊石向方ニ至リ向人ト對話 親子供一入小形「モリ」矢先ニ八九寸位ノ小魚ヲ貫キ携ヘ帰アリ之ヲ見テ泊門ト問答スル左ノ如シ

問 此子供ハ誰ノ子ナリカ

答 我が孫ナリ

問 此小形モリ矢先ニ魚ヲ貫ケルハ子供ノ戯レカ

答 我が仲ハ「ハ」タリ」ヲ養養ニシテ日々海中ニ入り漁探ヲ為ス故ニ養用ト

シテ小形「モリ」ヲ携フ夫レヲ孫ガ子持テ燃タルモノナレバ玩具ニアラス  
護食用トシテ「モリ」ヲ携フハ何ノ為カ

問 海中ニ潜リ鯛ヲ採ルは種々ノ魚業リ來テ裸體ヲ喰ムノ患ヲレバ之ヲ防カン

為メ「モリ」ヲ携フ若シ來ルアレバ食糞スナリ

問 海中ニテ「モリ」ハ奈何ニ持ツヤ

答 柄ニ付ケシ緒ヲ柄ニ掛ケ居リ魚來レバ身捕シテ突ナリ

問 此「モリ」ニテハ何尺位ノ魚ヲ獲ルカ

答 此「モリ」ハ瀧明ノ長サナレバ五寸以下ノ魚ヲ突キ得ルニ堪ユ

右ノ問答終テ「モリ」一本ヲ讓受ケ其圖左ノ如シ

〈図省略〉

磯路方出テ海辺ニ赴クニ漁舟ノ帆掛テテ沖ヨリ揚來セリウ覽ル兼岸ノ後子索何ニシテ舟曳揚ルカト砂上ヲ行ミ之ヲ見居リシニ夫ノ着岸スルヤ舟母共砂上ニ置キシ「又」ヲ引テ持テ行キ舟底ニ入レバ舟中ノ母子共下ツテ網ヲ砂大引張ルヤ陸上ニ待テシ舟人群カリテ網ヲ曳クト共ニ又舟中ノ母子ハ飛下テ網ヲ木ニ肩ヲ懸ケ「エ」ヒ「エ」ヒノ掛声ヲ發シ砂上ニ舟ヲ揚ケム之ヲ覽ル子海濱ニ赴ク途中砂上ニ振ヘル舟ノ種類ヲ瀧ヌルニ約テ左ノ如ク

一 漁舟 長五間中六七尺

附属具 帆柱一本 網押木豆ケ処 (圓) 二各々ケ処 繩ニ三卷ケ処

網五挺各長二間 釣竿及ヒ「モリ」ヲ懸ル又木四本 (圓) 三本ツツ

一 タブ子 (小舟ナリ) 長八尺位三尺

網一挺 丸念若干 碇若干 浪浪置若干

〈図省略〉

是等ヲ親子傳漁漁夫ノ子供ヨリ玩具ノ小舟ヲ讓受ケ左圖ニ示セル如シ

〈図省略〉

小磯村土俗再調査  
八月廿七日西小磯ノ村口ニ赴キシニ右側小磯ノ下ニ佛像ヲ彫刻セル碑及ヒ石燈并ニ注連字在ルヲ認メシヨリ傍ノ農家ニ付キ尋テ主人曰ク石像ハ村民信仰ノ道祖神ナレバ毎歲注連字ヲ拂テ後子燒ヒ七シメバ其残片ナリ云々之ニ於テ參考ノ料セシム欲シ石像其他ヲ圖寫スル左ノ如ク第一圖ノ道祖神ニシテ彫石ノ佛像彫メルモノ第二圖ノ如キ石ト第三圖ノ如キ石ハ彫石ノ側ニ積ミテ此種タル石塔ノ一部分ナリ



其姓名ハ

鈴木アツク 真間キン 平田シマ 小嶋サク 鈴木ノブ  
齋藤ツマ 鈴木ハナ 真間カツ 宮沢キヨ 木村ロク  
古沢タケ 飯田カン 鈴木トメ 高橋キン 加藤トメ  
加藤トヨ

此等ノ内ニテ熟練者ト思ヒキ二人ニ買間スル左ノ如ク

間 足ト等ノ内ニ音歌取アリヤ

答 十六ノ内ニ五人ハ音歌取ナリ

間 歌曲ノ文句ヲ唱ヘ聞セヨ

答 妾等ガ語ヒシ文句ヲ唱ヘ聞セヨ

之ニ於テ娘一人ヲ選セテ、傍ヨリ文句ヲ筆記スル三、三、左ノ如シ

一 「マルク、く、ミナサン、マルク、コレホシロイ、コテンノオニワニ、コレホトシロイ、ゴテンノオニワニ、ヤレセシヨ、オセマヤ、シロゴザニ、く、」

二 「マルイタマゴハ、キリヨデシカク、モノ、ユイヨテ、カドガタツ、く、」

三 「オナツラウチアハ、ナニシヨウバヨヨ、コジキヨトメテ、シギキヨウテタラ、シギキヨウテクワレヌ、オナツラウチテ、コレテモ、オナツハ、デシヤバルナ」

四 「オラクラウラ、ヨルナクトリハ、トリシヤゴザラヌ、イロオトコテゴザル、オラクニ、テロテロ、テロトトリ。」

(因寄略)

以上ノ文句ヲ聴キテ娘等ヲ退散セシ能波氏ニ買間スル左ノ如ク

間 此節ハ毎夜歌スルヤ

答 往時ヨリ毎夜七月十四十五十六ノ三日間ニ行テ承リシガ隨曆ニ改メテヨリハ一ヶ月是

ハ七月十四十五十六ノ三日行ハシム

間 踊子ノ組ノ人員ハ奈何

答 踊子ノ組一人娘ニ定メテシテ乃チ大組ハ二十人中組ハ十五人小組ハ十人入ナリ

間 今夜連レ来シ娘等ハ何者ノ兒ニシテ住地ハ何所ルヤ

答 山ノ上ニ住スル農夫ノ娘ナリ

間 当地ニハ一般ニ女子ヲ踊ヲ習フスルヤ

答 商家ノ子ハ女子ニ習踊ヲ禁スレド連夫農夫ノ子女ハ一般ニ踊リヲ習フナリ

間 是踊リハ当国内ニ一般ニスル習慣ナルヤ

答 余ガ知レル場所ハ大住阿闍梨ノ一郡ニシテ其他諸ノ他郡ニアルキヤ知ラヌ

今ヤ能波氏ガ連レ来シ踊子ノ組ノ演舞ヲ覧テ其状態ノ一端ヲ窺ヒ加フルニ娘等及ヒ

能波氏ニ買間シテ歌唱ノ文章并ニ踊リ買リ地域ヲ知得スルハ之レ個ニ能波氏ノ盡力ナレバ厚謝シテ何氏ヲ帰宅セシメ而テ町内ニテ演スル状況ト比較観察セシメ九時過演告ヲ出テ南町ニ至リ視タル踊リノ状況ハ左ノ如シ

南町ノ空地ニ今ウ盛リト演シテ一組八十餘人ニシテ内形ニ左券シ一組八五六人ニ内形ニ右券シ唱歌ノ發聲ト太鼓守、ヲノ鳴響ト相ヒ和シ名義ヲ競争セシム其形ハ圖ノ如ク

(因寄略)

娘等ノ容姿服装并ニ服飾ノ状態

娘等ノ或者ハ手拭ヲ冠リ手巾ヲ帯リ帯リ占メ手織ヲ懸テ髪ヲ髷ニ折テ返シ踊ヲ頭ハシ膝足ナリ或者ハ頭ト衣ヲ束テ手織ヲ懸テ帯リ占メ草履又ハ靴ヲ穿ナリ

斯ル有様ニテ娘等ガ熱心ニ踊レルヲ察見物シ殊ニ踊子ノ周辺ニハ他ノ踊子ノ踊リヲ方群集シテ是等一編ヲ演舞ヲ妨害中比シメント黒口ヲ吐キツ、小石ヲ投ケ將ニ暗罵ヲ仕カ掛ケン様ナラヌ矣動ヲ出願セシム

之レ南町ニ於ケル現状トレバ何カ甚因ノト思ヒツ、溝邊ノ方ヘ南歩スルヤ遇然老母ノ娘ノ入ヲ從ヒ行ケルヲ視タレバ参考ノ一助ニモナラント尾行シナカラ候等ノ様子ヲ窺フニ老母ハ左手ニ「サ、ラ」ヲ持テ右手ニ一人ノ娘ノ手ヲ携ヘ何カ話ヲ為シ、「想ニ踊ノ噂ナラム」他一人ノ娘ハ太鼓ヲ懸テ既足ナリ其其能波氏ノ娘ノ自備ナキ内ニ家路ヲ指テノ帰途ト思ヒシ儀等ニ尾行シテモ能事柄ヲ聞カザルニヨリ南町丁ヨリ本通ヘノ橋ニテ或ル商家ニ休ヒキ今ヤ南町ニテ觀シ踊ノ様子ヲ窺フ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

前ヨリ町内ヲ練リ過テ下積コナシ當日ニ至レバ町々ニ娘等組合ヲ定メテノ場所(毎處同シ)ニ集リ盆踊ヲ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

當是レテ盆踊ヲ習フテ演スルハ連夫ノ娘ニシテ彼レハ一處中晴レノ場合ト傳數月

享保 明治十年ヲ去ルレ百六十年ヨリ百八十年ニ至ル  
明和 明治十年ヲ去ルレ百二十年ヨリ百三十四年前ル  
等ノ文字ヲ彫刻シタルニ是等事ニハ多ク建レシナラン其他實テ石塔

ヲ觀レバ皆ナ以降ノ年ヨリ銘スルノミ是等ヲ謂ベテ石塔ノ現況ヲ圖説シテ前述ノ  
目録シキモノ乃チ花籠 其他ノモ及ビ墓碑ノ墓石ニ小石積ミアリシ様ヲ描寫(圖三示  
ス如ク)ノ際處夫等墓地ヲ掃除スルレバ、彼人ニ問ケル左ノ如ク

問 版碑ヲ垂テ現今モ使用セシムルヤ

答 昔シハ版碑ヲ建シガ近クハ墓通ノ石塔ヲ建ツルノミ

問 版碑石ノ形地ハ何処ナリカ

答 此石ノ産地ハ足柄下郡根原川ナリ

問 墓石ノ側ニテアル「ゴロイシ」ハ何ナルヤ

答 彼ノ小石キ「ゴロイシ」ハ里窟ノ墓ナリ

問 墓前ニアル建札ハ何ナルヤ

答 此建札ハ供養ノ為ニシテ初七日ヨリ七日迄ノ追善佛字ヲ一度ニ書キ連テテ  
ルニテ燒燬ノ代用ナリ

問 墓前ニ建ツル等ノ上ニ三四角小柱ヲ付シモノハ何ナルヤ

答 此物ハ方宮四道六道下唱へ諸ノ際細燭ヲ付ケルモノニテ桃燈ノ代用ナリ

問 送葬ハ日中又ハ夜中ノ何レナルヤ

答 当地ニテハ夜中ニ執行セシム

問 墓前ニ立ル竹柄ノ簾及ヒ藁竹ハ何ナルヤ

答 竹柄ノ簾ハ花籠ニシテ葬付ハ追善ノ為メ建ツナリ

問 普通油碑ノ墓石ニ小石ヲ積メルハ何ノ為メカ

答 臺石ニ小石ヲ積メルハ平卒七ル子供供養ノ為ナリ

問 誰ガ追善ノ為メ小石ヲ積ミ其詳ハ奈何ナルヤ

答 幼穉ノ小供ハ天性石ヲ嗜ミテ玩ケ故へ吾ガ子追善ノ為メ父母積メルナリ

問 当処ノ小石ハ何ント称スルヤ

答 当地地ハ小八幡村内小石原ニ称ス

(附略)

以上 同ノ問答ニ殆ト一時間ヲ消シテ午後五時四十分閉居津ニ連シ祭ヲ休ビ發車時  
刻ヲ尋バ七時六分ナリトニ於テ旧儀ヲ重行シ土俗ヲ觀察セント人力車ニ乘シテ六時  
閉居津ヲ發シ前川村ニ至レバ農家ノ側ニ二道祖神ノ碑ヲ中川川ヲ渡テ山田村ニ連セバ此

地ニ二道祖神ノ碑アリ一宮村ニ至ラントスルハ左側崖ヲ濱辺ニ赤鉢巻ヲ巻ケタル  
漁夫ニ會フ暇下シテ一宮村ニ至レバ漁夫ノ部落ニシテ赤鉢巻連テ漁夫ニ連テ  
村人ニ問ケル左ノ答ヲ得タリ

問 出計附近ノ漁夫ハ追善キハ祝賀ヲ催スルモ多シニ從ヒ祝賀及ビ貢

与ニ致スル差アリ乃チ五百圓以上赤手拭、千圓以上赤一尺布、千五百圓以上赤巻  
一子由以上高砂翁衆出ノ衣服等ニテ是等貢品ニ應シ祝儀目録ニモ差アリ云々

一宮村ヨリ國府新橋ニ至ラントスル松葉村ニ想ハル石塔ヲ觀レバ十餘ノ墓ナリ北方二  
台地ヨリ其地勢タル石塔期ノ遺物ヲ遺棄シテカト想ハル仍チ車夫ニ地名ヲ尋ナシ中里

村ノ自筆ナリト答ヘキ國府新橋ニ至レバ左側ニ松葉ノ大畹ヲツテ奥深キ地ナレバ何神  
ヲ鎮座セルヤト車夫ニ尋ニ六所所明神ナリト答フ同村連道ニ連シ左方ヲ觀レバ數ヲ

隔テ、景勝ノ地ニアツテ附テ地盤ヨリ小高キ丘ヲナシ表石店生ノ間ニ農數數ヤ奈  
何ニモ優勢ノ地ナレバ若シヤ國府ノ遺跡ランカト追テ七ツル國府本郷ヲ過キ西小磯

ヲ經テ早ニ二連シ下車シテ徒歩シテ七時東宮二燭ル  
本日酒匂大磯間ニテ覽タル道祖神碑ノ種類ヲ如シ

(附略)

大磯盆踊觀察

八月十一日午後濱海遊歩ノ帰途雨下町通過ノ際女兒ノ「サ、ラ、ラ」ヲ鳴ラシ太鼓ヲ打ツニ々  
伍々隊列ヲ組ミ練リ歩ユムヲ視テラレバ方寓舎ニ招キ彼輩ノ踊ヲ觀ント熊忍氏ニ

頼ケレバ午後七時遊龍坂氏娘輩ノ一組ヲ至ヒテ寓舎ニ來リ僅四二時半踊ヲ演ゼシ  
ム其詳ノ様ヲ記スル左ノ通り

踊 舞 師 二 於 左 一 様 林 度 ヲ 為 シ 步 調 齊 奏 歌 ヲ 唱 へ ツ 樂 器 ヲ 奏 シ 円 形 二 連 奏

ス 第一團ノ如ク 樂器ハ八小太鼓ト「サ、ラ、ラ」(一)器ニシテ太鼓打ガ太鼓ヲ打ツニ其響

「トトト」(二)「サ、ラ、ラ」ハ之和スル(三)「サ、ラ、ラ」ハ二連奏ニシテ「サ、ラ、ラ」ハ

ハ八拍等ニ「ス、ラ、ラ」太鼓ト「サ、ラ、ラ」ノ持子様ヲ述ニ太鼓打ハ左手ニ太鼓ヲ持テ胸

前ニ捧テ右手ニ小櫛ヲ持テ之ヲ打ツ「サ、ラ、ラ」ハ両手ニ「サ、ラ、ラ」兩端ヲ繞リ握キリ

腹ノ前ニ捧テ左右へ屈伸放延セシメツ、「ス、ラ、ラ」ナリ體操ノ動作ニテ連奏スル一殆ノ下

一時間ヲ數十曲ヲ奏舞シタルニヨリ其唱聲漸ク止ム

彼輩ハ十年以上十六年以下ノ小娘ニシテ裝ハ「銀燈草」藍一衣服ハ「單衣」帯ヲ巻メ手

纏ヲ懸テ足ニハ駒下駄ヲ履ケリ

此一組ハ物質十六人ニシテ内五人ハ「サ、ラ、ラ」十一人ハ太鼓打ナリ

兼シ漁民ニ組ニ分レ一組ハ海中ノ「カツギ」ヲ夜シ一組ハ陸上ノ役ヲナスモノニテ日没ニ至レバ各ヨリ注連飾ヲ持テ来、海濱ニ種ミト火ヲ付ケ焼ヒセシムセウヲ  
言「ヤンノワコッコ」ト称ス  
酒酌附近ニ俗規察

九日午前十二時頃ヨリ徒麥シ園園遊、中央ニ至レバ左側ニ道徳神ノ碑アツテ例ノ車シテ停車場ヨリ徒麥シ園園遊、中央ニ至レバ左側ニ道徳神ノ碑アツテ例ノ  
円石アリ酒匂村ノ東端ニ連シ農家ニ組ヒ左ノ窟間ヲナス  
間 道徳神ハ何處ニアルヤ  
答 村内中央ノ左側ニアルヤ  
問 当村ニ依ラ備ムニアリ  
答 草履ヲ「ミカク」ニ丸石使フ  
問 道徳神ニ円石ヲ供フアリヤ  
答 試石ヲ用ユ  
問 「ミカク」石ヲ使フヤ  
答 草履ヲ「ミカク」ニ丸石使フ  
問 道徳神ニ円石ヲ供フアリヤ

此家ヲ出テ指示ノ處ニ至レバ左側農家ノ傍ニ道徳神碑アツテ礎石ノ上ニ二枚輪ノ円石アリシ松邊園ヨリノ湯湯清小学校隣ノ桑園ニ入り視レバ素焼赤色ノ祝詞破片數枚セリヲ認ム想フニ此地ニモ曾テ五壇アリ此地ノ十賢タルノ原野野十十層赤粘土タリ小幡村ニ至レバ左側「海辺」ノ方ニ二松林ツツテ林後ニ露地ルヲ認ムヲ視ント松林ヲ過キ行ケバ濱辺ニ接シテ灰庫ノ内ニ二道母アツテ側ラニ人骨タレバ彼レニ質問セシト近方付ケタルニ村人ニアラシテ非人ト「所謂漁民」思シタルヲ食糧ノ際ニ老人小供ノ二人ナリシニ之ニ於テ想ヲク候ガ甚ク「状態」聞カバ參テ「資料」得ヘクト彼レノ傍ラニ二座シレテ左ノ問答ヲナス  
問 足ハ何所ノ者ナルカ  
答 余ハ元ト沼津ノ漁夫ナレド、十三年前ヨリ非人ノ群ニ入り之レト定リタル住處ナリ  
近年計行ニ移レリ  
問 足ハ漁夫ナレバ在田地ノ漁法漁具ト當地ノモノト差アルヲ知ルヤ奈何  
答 沼津ノモノト當地ノモノト同一ナリ  
問 足トハ一兒ヲ持テルガ母ハ何處ヘ行キシヤ  
答 余ト不和ヲ生シ何處ヘカ出奔セリ  
問 足ト難病ノ氏腹業スルアリヤ

通常ハ賣業ヲ觀スレド場合ヨリテハ「センブリ」ト云ハ野草ノ根ノ飲メリ足下等ノ仲間ニテ婦女出産ノ由出生兒ヲ如何ニ取扱フヤ  
婦女出産ノ刻ハ先ヲ鍋ニ湯ヲ沸カ次ニ地面ニ深ク一尺許ノ孔ヲ穿テ油紙ヲ敷キ  
問 平ヨメニ湯ヲ注シ湯メ分替後之ニテ初湯ヲ穿シム  
答 平ヨメノ湯ハ御スルヤ  
問 余輩ノ人恰ハ三時ト同シク二湯ヲ溜メ其辺リニ座シテ掛ケ湯ヲ為スノ  
答 「此仕方ハ余輩方如キ非人仲間ニハ一般ニ行ハル  
食物ヲムルム手段ハ御スルヤ  
問 人様ヨリ恵ミノ銭ヲ使フ  
答 買物ヲ為ス錢ハ奈何スルヤ  
問 足下ノ所有品ハ何々ナルヤ  
答 御覽ノ如ク茶籠一ツ、土壺一ツ、曲物（飯入）一ツ、メシコ（澤ノ澤人物）一ツ、  
樂ア明燐（酒入）一ツ、藁置職、襪籠、本、煙草入一ツ、マツチ一、手拭一筋、アンブラ席一枚  
小切レツ、レイノカンパンギ一枚、并ニ行李一個ナリ  
問 行李ノ内ニ何品ヲ入レアルヤ  
答 行李ノ内ニ八錢銀一ツ、フンキ鍋一ツ、鉄一ツ、杓、小兒ノ一ツ、蚊ヤ一張、明合羽一ツ  
以上、所有品ハ行李内ニアルモノト身辺ニ出シ置ケルモノニテ彼レカ財産ナリ  
此間市中彼レ父子ハ書前ヲ喰ヒツ其食物ハ飯ト味噌ナリ彼レ父子ノ服装タル父ハ五十餘  
オノ老入ニテ紺色履掛ノ上ニ「カスリ」ノ単衣ヲ着シ三ツ股ヲ占メ鬚髮ヲ野郎ナリ子供ハ六  
七ツニシテ頭ハ五分刈ニナシ古手拭ヲ纏ヒ合セタル単衣ヲ披リ今ヤ彼レ生活ノ状態  
ヲ聞知シ得タレバ厚謝シテ若干錢ヲ惠シ彼レ別レ傍ラノ墓地ニ至レバ拜禮ス  
処ト異ナリテ種々目新シキモノアリ先ツ第一、二子カ目付キシハ版繪ナレバ其年代ヲ  
識シト數十基ノ牌面ヲ調ベシニ多クハ蘇生シテ文字ヲ讀ミ難カリシガ夫、讀得ラ  
レシト皆ナ徳川時代ノ年号ニ多ク

万治 明治二十年ヲ去ル一、二百二十八年ヨリ、二百四十年前ニ當ル  
寛文 明治二十年ヲ去ル一、百一十九年ヨリ、百二十七年前ニ當ル  
天和 明治二十年ヲ去ル一、百一十五年ヨリ、百二十年前ニ當ル  
元禄 明治二十年ヲ去ル一、百九十五年ヨリ、百二十年前ニ當ル  
寶永 明治二十年ヲ去ル一、百八十八年ヨリ、百九十四年前ニ當ル  
正徳 明治二十年ヲ去ル一、百八十二年ヨリ、百八十七年前ニ當ル



古墳所在地

本村返ノ車窓ヨリ眺ムルニ大磯國府津並ハ約千五由ノ間ニシテ古墳散在シ特ニ  
多存ノ地ハ國府本郷附近ナリ

本日山出北ノ村ニテ覽タル墓石(第九圖第十圖)及ヒ鶴巢(第十一圖)ノ略圖ヲ左ニ描寫ス  
(國府略)

小磯村之上宿視察

八月七日庄寅寺ヨリ出テ磯堆内鴨立出□□□□ヲ過キ舟前ノ西端ニ至レバ  
右側墓石ノ軒下ニ四石ヲ見テ談家ニ入り主人ト問答スル左ノ如ク

問 此石ハ何ナルヤ

答 神様ハ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂上四メルヤ

答 素ヨリナリ

問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

問 此石ハ何ナルヤ

答 神様ハ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂上四メルヤ

答 素ヨリナリ

問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

問 此石ハ何ナルヤ

答 神様ハ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂上四メルヤ

答 素ヨリナリ

問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

問 此石ハ何ナルヤ

答 神様ハ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂上四メルヤ

答 素ヨリナリ

問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

問 此石ハ何ナルヤ

答 神様ハ奉納ノ石ナリ

問 此石ハ素ヨリ頂上四メルヤ

答 素ヨリナリ

問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

之レ又ハ海濱ヨリ拾ヒ来ル

問 当村ニテ食卓回數時刻、常食物及ヒ間食ノ種類ハ奈何ナルヤ

答 朝粥夕ノ二回ニシテ朝ハ七時、晝ハ八時、夕ハ八時、常食ハ粟米ノ混炊飯ニシ  
テ一升ニ付米一合十割粃又ハ粟八割粃其狀立ハ左ノ通

朝(野食) 晝(飯汁) 夕(飯)  
間食ハ粟糲飯ニテ際レレ期節ニ從ヒ各品ヲ異ニス村人俗ニ「茶ヲケテ」ト唱  
へ賦「フカイイモ(薩摩芋)、イモタンゴ(煎ニシテモモ、輪切ニシテタルモノ)、等ナリ

問 磨石ノ石及ヒ「オモリ」石ヲ受マシ

答 「オモリ」石「オモリ」石ヲ受マシ  
之ニ於テ老翁ヨリ「オモリ」石ヲ得タレド磨石ノ石ヲ所望セバ彼レ隱家へ赴キ談石ヲ持參シタ  
レバ彼ラシテ所有主ニ讓受ヲ授合メシニ進呈ノ由返報ス傍テ談石ヲ得タリ(圖ノ如シ)

問 紀念ノ為メ足下井ニ磨石所有主ノ姓名ヲ聞カ

答 子ハ湯澤長衛ト申シ磨石所有主ハ中川善七申ス  
尚其他ニモ神佛等ヘ石ヲ供フアリヤ

問 當村ニテハ各自ノ宅地ニ種樹ヲ祭キカ宅地ニモ小胸ヲ安置シ石塊ヲ供フ

答 二僂テ小胸ヲ拜シ談石ヲ覽ニ欲シ老翁ニ導カレ墓地ニ至レバ木輪ノ下ニ小胸ヲテ石ヲ  
置前ニ供ヘアリ(圖ノ如シ)

問 此石ハ何ナルヤ

答 俗ニ「ゴリン石」ト云ヒ海濱ヨリ拾ヒ来ルモノナレバ敢テ人トテ加ヘス  
此石言ノ聞キ謂クク俚俗「ゴリン石」ト唱フルノ所謂五輪石ノ轉訛レバ之レ五輪塔若ノ海濱  
ニ流レ来ルモノナラント想ハル數回ノ問答を終テ談石ヲ去リ再び草ニ至リ過刻覽タル

問 此石ハ何ナルヤ

答 倉備ニ安置ノ碑ハ町内ノ墓ノ神ニシテ町民ノ崇敬厚シ  
羅列ノ四石ノ為ナルヤ

問 此石ハ何ナルヤ

答 此石ハ町民ノ奉納物ナリ  
問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

問 此石ハ何ナルヤ

答 倉備ニ安置ノ碑ハ町内ノ墓ノ神ニシテ町民ノ崇敬厚シ  
羅列ノ四石ノ為ナルヤ  
問 吾等申ニ供外ニ居リシ何ニ思ヒケンヤ談石ニ寄リテ頼リニ頂ハ砂ヲ盛リ遊ブ古外  
ニ出テ供ノ遊ビテ止メ談ヲ觀視スレバ圖ノ如キ形状ニシテ石目間連物ノ四石ニ類  
似ノ品レバ底裏ハ奈何ト談石ヲ手ニテ「ゴコシ」見レバ頂上同シク凹メアリテ得ン  
ト欲シ儼々ノ村人ニ持主ヲ尋ラハ町内共有奉納シレバ譲リ難キ者ヲ、松並木通  
キ西小磯村ノ東端ニ至レ右側墓石ノ庭ニ圖ノ如キモノ立ラレテ見テ村ノ中央左  
側ノ墓家ニ依リ立物ノ故ヲ尋ヌ老翁ノ答左ノ如シ

種々ノ神符ヲ軒口并ニ神棚ニ奉安シ罹禍ノ際ハ醫藥ヲ用フシテ之ヲニ換ルル神  
官(俗ニ云フ山伏ナリ)ノ説ヲ確信シテ祈禱被験等々受クルナリ

松田山北地方秘祭

六日晴午前十時十分大鏡停車場ヲ離ルルニ松田ニ向テ十一時松田ニ下車ニテ停車場  
ヲ出テ村道ニ至レハ左右ノ通スル車道ニ所屬足尾路ニレハ左ノ関本ニ通シ右ハ兼野

ニ向テ右折東村内ヲ一覽セバ左側ニ寺院アツテ山北區(第一團)ノ如キ石祠アリ之  
ヲ撞撃シテ竟臨シ、旅亭ニ休ヒ晝飯ヲ喫シ後主人トノ問答左ノ通

問 足下ノ姓名ハ

荅 屋号ヲ相傳ト称シ姓名ハ高橋六郎兵衛

問 隣地ニアル院ハ何ノト号スルヤ

荅 延命寺

問 山間區ノ石祠ハ何神ヲ祭リシヤ

荅 彼ノ石祠ハ村民ノ尊信スル神ニシテ塞ノ神ナリ

問 当村地内ニ社ノ出ル地アリヤ

荅 村内ヲ「ワシ」ト云ヘル地ヨリ瓦七焼米ノ出ルルアリ此處ハ昔時松田某ノ城隍  
ニシテ村人俗ニ「ヤウヤマ」(城山)ト称ス

問 川狩ニ「カサ」アリヤ

荅 川狩ニ「カサ」イヌタテ。タバコクキ等ヲ用ヒ鬚鬚格中辺ニテハ「サンシヨ皮」灰  
等ヲ使シガ方ハ「鬚」ナリ

高橋氏トノ對話ヲ終リ兼野道ヲ東參シ小流ノ土橋ヲ渡テ子備ノ農家ニ入リ老

婆ニ逢テテ運載具ヲ一覽シ其用法ヲ問知シタレバ其略圖(自第 圖迄第六圖)ヲ描寫  
シ次ニ「厩内」ヲ覽レバ十間ノ一隅ニ兼野ニシテ草履ヲ作リ其例ヲ二三圖ノ田石アリタ

レバ問答ヲス左ノ通

問 此田石ハ何用ニスルヤ

荅 当村ニテハ「馬ノクツ」及ヒ「ワラヂ」ヲ磨スルニ用ユ

問 谷中田石ヲ熟視スルニ赤紅石或ハ砂石ハ堅石ノ自然ノ田形ヲ為シタルナリ此家ヲ去

テ停車場前ノ畑差備ノ農家ニ入リ厩内ヲ覽ルニ例ノ田石ト「ナマコ」形ノ石「五」レハ当家  
ノ主種ニ置用スル左ノ如ク

問 此田石ハ一般ニ使ワルヤ

荅 農家ニテ一般ニ使フ

問 「ナマコ」形ノ石ハ何ニ用ユルヤ

荅 「ナマコ」形ノ石ハ何ニ用ユルヤ

問 「ナマコ」形ノ石ハ何ニ用ユルヤ

荅 「ナマコ」形ノ石ハ何ニ用ユルヤ

荅 此石ハ廣又ハ狭ヲ編ムニ使フ「ソンド」ナリ

問 是等ノ石ハ何處ヨリ持テ来ルヤ

荅 酒田ノ河原ヨリ拾ヒ来テ使フナリ

此家ヲ去テ停車場前ノ厩屋ニ休フ後ニ調査シテ運載具及ヒ石器(第七團第八團)并  
ニ石器ノ略圖ヲ左ニ載セ参考ノ料ニ備フ

(原書略)

午後一時四十五分松田ヲ發車シ一時山北ニ下車シテ停車場前ノ農家ニ至リ老

翁ニ逢テテ問答シ得タル要録左ノ如シ

問 当村ニテ火手血ヲ使用スルヤ

荅 數年前迄北方ノ農家ニ赴キ主人ト問答スル左ノ如ク

問 所有ノ「ス」竹ハ何ニ使フヤ

荅 筈及ヒ行季ヲ造ルトナス

問 「ス」竹ノ葉ヲ食物ニ代用スルルアリヤ

荅 當村ニテハ「ス」竹ヲ製用ニ供スレド其葉ヲ食セズ

問 當郡ノ餅村タル世傳中山神禱ノ村況ハ奈何ナルヤ

荅 小田原人ハ僻遠未開ノ様ニ嗜スレド當時ハ開ケテ時ノ村俗ヲ失ヘリ

問 (遺説及ヒ先ニ訪問ノ農家ニモ例ノ田石アリシ)此家ヲ去テ停車場前ノ農家ニ至リ

砥石製草履等ヲ賣テ停車場ニ返リ四時山北ヲ發車シ同五分大鏡ニ下

車ヲ東谷ニ帰ル

本日見察セシ松田山北ノ村俗及ヒ雜察ノ遺跡ヲ左ニ逐録セシム

松田山北ノ村民ノ屋舎ハ約テ查書ニシ據スニ風防ノ為メ「シヤ」草ヲ植ヘ特ニ農民  
ノ厩内ニ構造ニ於ル其半ハ床板敷リ住居ニシテ其半部ハ十間ニテ物置場トシ

「ユル」ハ住居ノ一隅ニ設ケラレ且石籠ヲ垂テシ之ニ鑄ヲ懸テ炊所ト十間ノ天井ニハ家

鴨ノツリ巢ヲ設ケ十間ニハ自然石ヲ相ヘテ築打トス母屋ヲ離レテ物置草リ之

ハ宮野邊田ノモノト構造均フシ既モタ々離レテ建ヲレ掘柱ノ草葺ニテ三五ハ

フツリ竹ヲ以テ種々ニ換ヘ正面ハ丸太、木ノ横ヲハ馬ノ出ヲ防ク床八十間ニシテ

草草ヲ敷キ食料糞糞ニ充テテ特善スルキハ現時石器ヲ用フ件ナリ

石期ノ遺跡

本日往返ノ車窓ヨリ豫察スルニ曾我村切前附近ノ梅林ハ赤柱トノ間ナレバ其遺物  
ヲ全滅スベクト想ハレ又タ松田對岸ノ同ノ地勢ヲ表ス

テノヲ製作スルハ魚皮ヲ小刀ニテ多ク刺キ指ニテ引テ延ハシ半日乾燥スルニ後シ後子  
ニテ割リ竹ニ張リ日光ニ晒シ乾シテテ第四圖ノ如キ心臓形ニ切りテ縫ヒ合ヌナリ

〔ハエナワ〕ノ錠

〔ハエナワ〕トハ長サ數十ヒロノ麻繩ニ若干ノ鈎ヲ付ケタルモノニテ繩ノ末ニ圖(第  
五圖)ノ如キ鈎ヲ結ビ付ケ海中ニ沈沈セシムルヤ魚葉ヲ喰フ仕掛ナリ此錠ハ別竹

ヲ鈎柄ノ如ク造リテ石ヲ麻糸ニ纏レルナリ

〔イカツ〕

此品ハ圖(第六圖)ノ如ク木ノ削リテ魚形ニ造リ口ノ部分ニ孔ヲ明ケ鼻ニ似セ  
〔テグス〕ヲ通シ其末ヲ輪ニ結ビ手繩ヲ結ビ付ケタル為ニシ眼ハ赤サングエヲ赤

ニテ留メ腹部ニ鉛片ヲ打込メ「オモリ」トシ左右ノ鰓腹ニ鳥ノ羽毛ヲ挿シ

ミ比札ニ似セ尾ノ部分ハ針金ヲ數本打込ミ其末ヲ曲ケテ鈎トシ中間ハ

麻糸ニテ巻ケリ

〔因習略〕

讓受ノ品々ハ左ノ通

一 イカツノ

一 章魚釣具

一 バカツノ用ヒラメ皮

一 ハイナノ錠

一 杏板

一 杏板

一 上原金次郎方子去ニ松林館南ノ畑邊ニ至レバ右傍ニ墓地アツテ石付等ノ側ニ左ノ如

キモノ建テアリ

〔因習略〕

之ヲ覽テ海濱ニ至リ砂原ヲ歩ムニ彼方是方ニ「ス」アレバ其符号ヲ集積セント

順次號ヲシテ去テ如キモノヲ得タリ是等ハ皆舟中ノ記標ナルベシ

〔因習略〕

以上ノ諸件ヲ調査シテ十二時乘吉船リ午後海濱ニ赴キ取調ノ件ハ左ノ如ク

一 渡邊附近ノ砂土小舟アレバ漁夫ニ用テテ草ニ此舟ハ方言「タブ」ト稱シ船探

集ヲ際用ユル舟ナリト云フ圖(第七圖)ノ如ク次ノ傍ヲ覽ルニ丸太ニ土繩ヲ以テ結ビ付

ケタル石アリ此品ハ何用ニ使フヤト漁夫ニ尋ナバ之ハ擲リノ刺木面ニ浮ルル具ナリ

ト云フ又又問曰ク此石ハ何處ニ得テ原形ノ體方又又上テラ施セルモノナルカト尋ヌ

ニ漁夫曰ク海濱ニ拾ヒ後子繩ノ「アビリ」目ノ部分ケケ道具ヲ以テ「アビラシ」タルナリ

ト云フ漁夫此石ヲ覽ルニ其體狀ト云ヒ形カ云ヒ余力屢ノ目録ヨリ拾ヒシ石ニ類似ノ点  
アレバ漁夫ニ之ヒ讓受ノ圖(第八圖)ノ如シ

〔因習略〕

一 百年後尾崎吉郎部ヲ訪ヒ昔昔問ヲナリ聞キ得タル件左ノ如シ

尾崎吉五郎述ベ曰ク当地ニ吾方如キ體狀ヲ集積ナルル者數人アリ斯業ヲ

為ヌニハ左ノ道具ヲ要ス

一 小舟ハ方言タフ子ト稱シ長サ九尺餘リ巾三尺餘リ(形見前二出ス)

一 小舟ヲ漕クニ六尺位ノ「一艇」

一 錠ハ圖ノ如キモノニテ木ヲ以テ鈎ノ柄ノ如ク作り柄ノ中程ニ石ヲ繩ニ纏リ「オモリ」

ト稱シ柄ノ一端ニ繩ヲ結ビテ「ワツカ」トシ之ニ數ヒロノ繩ヲ付ケ繩ノ一端ヲ舟尾ニ纏リ

置キ海中ニ投シ舟ノ浮動ヲ止メシム

一 浮ケ(一名浮木)ハ必用ノ要具ニテ其製作タル丸太ヲ四尺許ニ切り圖(前二出シ)

ノ如ク二テ所ニ「ホソ」ヲ穿テ之ニ太繩ヲ通シテ繩ヲ付ケ繩ハ丈六寸位ニテ其末ニハ

圖(前二出シ)ノ如キ丸石ヲ結ビ付ケ「オモリ」トス此其ク用ハ船探中島ヲ吐サリナレ

バ半時間位ニハ必水面ニ浮ビ出テ「浮ケ」ト稱シ付テ息ヲ一ナルヨリ俗ニ「イキツキウ

ケ」ト稱ス尤モ此其ヲ投スル地位ハ船ノ居ル處ニシテ「オモリ」石ハ海底ニ沈ミ丸太ハ水

面ニ浮カビ「初ヲ連結セル繩」ニ依リテ浮ビ出ツルナリ本末息ヲ吸フテ再び海中ニ泳

キルル故ニ斯具ナレバ船業ヲ營ム能ハス

一 方言「ガ子ベ」ハ就中重用ノ品ニシテ船ヲ岩面ヨリ「ヘガス」ニ使フ尤モ此其ハ圖

ノ如キモノニテ柄ハ木ニシテ「ハラ」ハ鉄ナリ但シ方言「ヘガス」ハ「ヘガス」ヨ云フ

一 網架ハ麻又ハ藁及ヒ「シユロ」機等ニテ繩ニタルモノニシテ船ヲ入ルルニ用ユ

一 船探業ヲ為ヌニハ裸體ニ據テ占メ下腹ニ網架ヲ縛リ付テ手ニ「ヘツ」ヲ持テテ

水中ノナレド近來ハ眼金ヲ掛ケナリ之ハ眼球ヲ傷メ下ノ脱起リテヨリノナリ

一 舟ヲ留メ錠ヲ投リシテ「浮ケ」ヨリ以内ノ海面ニ浮クニ至テ其體息所ヲ想フ處ニ

尾崎方子去リ海濱ニ赴クニ漁夫宅地ニ左ノ小舟アルヲ覽ルニ扉前ニ白石置置セシム

ラル之レ何ノ為ナルヲ辨知セザレハ參テ科トシテ其影影ヲ描寫セシム

〔因習略〕

四日橋渡氏來訪ニ付聞知ノ件左ノ通

同氏曰ク漁民ハ僧同心深キヨリ毛羽西ニ小舟ヲ鎮座シテ朝夕拜礼ヲ怠ラズ又

船探ハ船寄及ヒ海神(俗ニ龍宮人)舟中ト稱スニシテ平素祈禱嚴敬ヲ好ミ





切ニテ外皮ヲ剥キ磨キ上テ腹部ニ鉄線ヲ足(ニ)三寸位ノモノ(一本ヲ付クシモノテ漁時ニ躍ミ舟邊ニ足ヲ打テ釣キテ魚ハ懸キ付ケル)ヲ連助セシメ所謂漁單ノ代用物ニテ之レナキハハ深底ヨリ釣リ上ル難シ

(奥名集)

偽探魚具

方言 バカブツナ(ハ)八竿子(ハ)如ク小艇ヲ像ドルモノニテ前部ハ船ヲ用ヒ眼珠ハ糸ノ結び目ニシテ其末方ヨリ吐キ出サシムルハ手繩ヲ付ル為ナリ体ハ魚皮ヲ以テ袋ノ如ク縫ヒ(網巻)合七鉤ハ腹部ヨリ袋ノ内側ヲ滑リ腹背ニ突き出タリ但シ魚皮ハ「フケ」ノ皮ナリ  
方言「アカブ」ハ八竿子(ハ)如ク鳥籠ヲ像ドルモノニテ其ハ鷹爪ニテテ眼ハ細糸ノ結び目ニシテ鼻ヨリ其末方出サシメ之ニ手繩ヲ付ルナリ体ノ下部ニ數本ノ針金ヲ挿シ込メタルヲ麻ニテカガケ其末方曲テ釣トスルハ鳥籠ノ手足ニ形ナルナリ  
方言「バツメ」(馬爪)ハ八竿子(ハ)如ク大艇ヲ像ドルモノニテ体ハ鷹爪ノ形ナリテ作リ上端ノ切口ヨリ側面ニ三孔ヲ明テ口位ノ麻糸ヲ通セ七ルハ竿ニ結ル為メニシテ体ノ底ニ針金ノ鉤ヲ挿シ込メ之ヲ錨被スルニ鳥毛ヲ似テス

用法  
是等ノ偽探魚具ノ釣ル用具ニシテ其法タル鉤ノ口ニ長サ二ヒロ位ノ麻糸ヲ付ケ其末方兩半乃至三間位ノ竿ニ結び付ケ之ヲ携ハ漁夫海上ニテ松魚ノ浮泳ヲ認ムルヤ舟ヲ漕キ寄セ七舞(舞)ヲ投シ其勢ヒ味ヲ度トシテ像ノ鉤ヲ投シ竿ニテカガマワスヤ試魚ハ釣取ルニ釣ヲ離マシ喰フヤ釣ルナリ  
南ノ町酒屋ニテ漁夫刀藏トノ問答左ノ如ク

問 海濱ニアル丸木ノ并柄ハ何ニ用ユルヤ  
答 夫ハ方言「スゴ」ト称シ舟ヲ海上ニ降シ且又夕海上ヨリ揚タルは砂上ニ振其上舟ヲ載セテラシ船ノ具ニシテ漁單ハ用テス此ハ(第一圖)ノ如ク并柄ニ九

太ヲ組ミ合セタルモノニテ(第二圖)ノ如ク松ヲ用ヒ横ハ方言「サルタ」ト称ス本ヲ使フ此本ハ(第三圖)ノ如ク山ヨリ切出セルモノニテ(第四圖)ト称ス乃チ「サルヘリ」ナリ  
問 当地ニテ漁民初釣魚ノ神社ニ納ムルモノアリヤ  
答 漁民中ニテ獲シ初釣魚ノ神社ニ納ムルモノアリヤ

問 尾ヲ限ル但シ小魚ハ香ヲ備フ(第一圖)ノ如クヨリ「アギ」ハ繩ヲ貫キ、太魚ハ(第二圖)ノ不便ナレバ口中ニアル方言「ホシ」ト称セル部分ヲ切り捨テ此「ホシ」上ニルハ魚ノ

心臓ナリ

問 魚ヲ神前ニ供フ時ハ唱言アレバ大意ヲ演アリヤ  
答 唱言ノ大意ヲ述レバ「斯ル良魚ヲ授ケテ予ヲ難存シマヌ此後子毛沢山ニ大魚ヲ

ノ獲ルニ使フ「モリ」ハ奈何ナル製作ニシテ漁時ハ奈何ニ投テシ之ヲ以テ獲スル魚ノ種類ハ何魚ナルヤ

答 當漁ニテ用ユ「モリ」ノ製作ニ於テハ柄ハ櫛ノ木ニ寸分三ヒロ位ヲ置テシ其両端ハ尖リテ漁時ニハ一端ニ鉄ノ矢尻ヲ付ケ之ニ手繩ヲ結ヒ柄ニカラケ其餘ハ懸置クタルニテ此種ハ麻ヲ燃リシモノニシテ長サ二寸五分ヨリ全体ノ形ハ圓ニ示スガ如ク(第二圖)此種機ヲ海上ニテ使フ方法タル先ツ魚ノ浮泳ヲ認ルヤ舟ヲ漕キ寄セ七五間ヲ度合テシテ投セルモノナレド魚ノ種類ニ從ヒ或ハ直置テシ或ハ側面ヨリシ又ハ尾方ヨリス尤モ「モリ」ヲ投スルハ舟ノ輪ニテ左足ヲ踏張り右足ニテヲ支ヘ恰モ鉤ヲ挿スル身構ニシテ右ニテ「モリ」ノ一端ヲツカミ左手ニテ柄ノ中程ヲ握リ頭上ニ標ゲ下端ヲ高フシテ矢先ヲ少ク下ケ度合ヲ測リテ投

又此種ニテ獲ル魚ハ「マガロ」「サワウ」「カ子ウチ」「シモクサメ」等ナリ  
問 釣針所有ナレバ漁モント答ヘ機ヨリ數種ヲ出シ授ク 馬爪、バカブツナ

答 容易ノナレバ漁モント答ヘ機ヨリ數種ヲ出シ授ク 馬爪、バカブツナ

(同圖)

問 「モリ」并ニ釣針ハ何者ノ作ナリヤ  
答 「モリ」ノ柄ハ機房ノ作ニシテ矢先ハ鍛冶中ノ作ナリ釣針ノ種類ハ多クレド皆ヲ漁夫ノ自作ナリ

問 當此物製合ハ奈何  
答 製合ハ一日二回ノ為ニシテ「朝ハ飯汁」晝ハ飯汁 野菜「夕ハ飯汁」香物 電飯

問 平白魚ハ奈何ニシテ獲ルヤ  
答 此魚ヲ獲ルニハ方言「ハヒナ」ト称スル數十ヒロノ麻繩ニ鉤ヲ付ケ「下ヂヤウ」ヲ餌トシ「オモリ」石ヲ付テ海ニ流シ釣ルナリ

小磯地内視察

三十一日午後寒空出テ大磯西磯松本別荘ヨリ過レバ右山麓ニ神社アリ香拝

セント表鳥居ノ礎ニ近ケバ地上ニ石アリ形ヲ四石ニ似タレバ之ヲ拾ヒ驗スルニ底物ナルニヨ

明治二十年七月二十八日ヨリ八月二十日マテ大磯町ニ滞在中間及び附近ニ於テ取調タル件ヲ左ニ登錄シテム

七月二十八日飯塚太郎ノ問答左ノ通  
近傍ニ塚アルヤ

問 大磯地内子取場ニ(俗ニ「コシチヤウジキ」ト云)ニ塚アリ其地質是ニアリ  
答 先年百石屋ニテ積穴ヨリ出タル土器ヲ數シテ保存スルヤ

問 百石屋ニテハ重二試器ヲ保存ス  
答 試器ヲ指出セル際積穴ノ状態ハ奈何ナリシヤ

問 試器ヲ指出セル際積穴ノ状態ハ奈何ナリシヤ  
答 試穴ハ子取所有地ニシテ附近ヲ聞取セントスルハ遠隔掘場当シニテ穴内ニ八十器  
刀剣ハ數アツテ十間ニハ小石ヲ數アリシ

問 穴内ノ状況ハ奈何ナリシヤ  
答 上中下ニ段三分レテ段ニハ八人會一休アツテ穴元ニ土器二個アリ中段ニモ同シク  
人會一休アツテ穴元ニ土器二個アリ下段ニテ穴内ノ室ニシテ何モ  
無カリシ但シ此穴ノ略圖ヲ表ハ左ノ如ク

(國省略)  
午後台町ニ於テ民舎ノ入口鴨居ニ薪炭除ノモノアレバ之ヲ求メ次ニ或ル民舎ノ  
入口鴨居ニ「シヤモチ」ノ針付ニセラルヲ見ル之ヲ買ヌニ虫齒ノ「マザナイ」ト答フ  
(國省略)

二十九年午前大磯西端畑地ニ於テ農夫トノ問答左ノ通  
問 此辺ノ畑地ニ古塚アリヤ  
答 小磯地内子「シ」ヨウジウガイ」ト云ヘル畑ニ塚一個アリ口碑「因レバ昔シ戰爭  
アツテ當時「戦死人ヲ葬リシ塚」ト云ヒ傳フ

三十一日限下町長崎吉五郎ヲ訪ヒ漁具ヲ一覽シテ漁法ヲ説明ラ圖□左ノ通  
張り網  
イシモチ(魚名) カマクラエビ(魚名) 等ヲ漁獲スルニハ方言イシモチ網ハ海老網  
ト稱スル網ヲ海中ニ張り置クハ試魚ノ泳キ來テ目ヲ網目ニ挟マル仕掛タリ

此網ノ上端ニ浮木ヲ付ケテ湯間ニ浮ハシ下端ニ「オモリ」ヲ付テ網目水中ニ直立セ  
シム但シ此網ハ「魚」(飯イシモチ)ヲ獲ルニ適スレド他魚ヲ獲ルニ能ハズ(第志圖)

方言「ピン」ツリ

此其ハ鮎、鯖ヲ漁スルモノニテ圖(第一圖)ノ如ク網線ヲ一端ニ「ダケリ糸」  
ヲ結び付ケ中程ニ小網袋ヲツルシ下端ニハ鉛ノ「オモリ」ヲ付ケ網線ノ曲レル末端ニ  
ハ「テグス」糸ヲ結ケ其末ニ鈎アリ但シ中程ノ網袋ニ餌ヲ入ル此袋ニ側ニ寸許三切  
タル塞蓋ヲ結ビハ鮎除ク爲ナリ何トナレバ藥ハ試魚ニトリテハ毒物アルニ因ル故ニ此  
塞蓋ニハ鮎ニ噛切ラレ患アリ

餌ノ種類  
中程ノ小網袋ニハ「シラス」(白魚)ヲ入レ鈎ニハ鮎、又ハ網目ニ切タル鮎ノ「トモエバ」ヲ用  
釣ノ用法

ユ  
數隻導ノ「ダケリ」糸ニテ海底迄垂セシメ漁夫指先ニテ「コブ」ヤ網袋ノ目ヨリ  
小半キ白魚コボレハ魚泳キ來テ喰フヲ「ステエバ」一名集メ餌ト稱ノ新リ「コツク」  
毎ニ鈎ニ刺セリ餌モ自動スルヨリ魚ノ喰フ仕掛ナリ

方音「ツツリ」  
此其ハ圖(第二圖)ノ如ク割竹ヲ弓形ニ曲ケ其中程ニハ紐ヲ如ク麻糸ヲ張り割竹ノ  
両端ニ細キ麻糸ノ「ワツカ」ヲ付ケ之ヲ竹筒ノヲ貫キ割竹ノ平均ヲ保シメ「ワツカ」  
ニ丈ケ三四尺ノ「テグス」ヲ付ケ其末ニ「アキ」ナキ鈎アリ此其ヲ魚名ヲ稱ト稱シ其  
中程ニ圓ノ如キ「オモリ」石ヲ糸ニテツルシ石ノ配置ハ一段ニシテ之ヲカラケシ數條ノ  
糸糸ヲ縛リ付ケ之ニ三百七十ヒロノ手繰ヲ結び付ケ尤モ「オモリ」石ヲ縛スルニ  
秘傳アリ

餌ノ種類  
鮎ヲ釣ルニハ期間ニ從ヒテ餌ヲ別ニス乃チ「ユワ」ニ「キワダマダロ」「イカ」等ハ全  
体ヲ鈎ニ刺シ又ハ細ク刻ミテ刺セリ  
用法

鮎ハ潮ノ溫度ニ因リテ海中ノ住居ヲ移セルモノナレバ寒中ハ深底ニ遊泳シ  
春秋ノ頃ハ中底ニ夏ハ浅底ニ居ル尤モ性深底ニ降座好ミテ浮沈ス  
ルナレバ試魚ヲ漁スルハ朝ル熱線ヲ用スルニテ乃チ「ダケリ」糸ヲ傳フテ  
「コツリ」ト稱ケバ曳上ルナレド深底ヨリ「ダケリ」ナレバ容易ノ業ニアラスレ又  
タ手鈎ニシテ指先ノ「コブ」ニ係レリ  
方言「ツツメ」ト稱スルハ手鈎(主トシテ鮎釣ニ用ユ)ニ用ル器具ニシテ第四圖ノ如キ  
形ヲナス之ヲ製造スルニハ方言「ツツサ」(ミツキナリ)ト云ヘル木ヲ五六寸位ノ丸

## 資料紹介 『大磯旅行記』

佐川和裕・加藤廣美

本資料は、平成三年度から進んでいる大磯町史編纂作業の過程で確認されたものである。資料は冊子形態で、学習院大史学史料館において、奥州棚倉藩阿部家文書の中の一資料として管理されている。

さて、本資料は、明治三十年（一八九七）に、当時華族であった阿部正功氏によって書かれたものである。同氏は奥州棚倉藩主を務めた人物で、麻布霞町にあった棚倉藩下屋敷を明治以降も私邸としていたという。なお、麻布霞町は、現在の東京都港区西麻布一丁目三丁目、および六本木七丁目にあたる広大な土地で、後の住宅地開発において大きな役割を果たしている(1)。

本資料の内容は、阿部氏が、夏季に家族とともに大磯において滞在した際の記録である。凡そ二〇頁にもおよぶ原書の構成は大きく二つに分けられる。前半は大磯滞在中の行動を日記的に書いたものである。大磯に滞在することになった理由と共に、明治三十年七月二十八日から八月三十日に麻布霞町へ帰宅するまでの行動が網羅されており、大磯を拠点に酒匂、一宮、国府津、松田、山北方面にまで足をのびている様子もうかがわれる。また、後半は、「學術上取調記事」、「小磯地内視察」、「松田山北地方視察」、「小磯村之宅内視察」、「漁夫ノ酒宴」、「高麗村視察」、「サイトバラ井」并ニ「ヤンノラッコ」ノ事、「酒匂附近土俗視察」、「大磯盆踊視察」、「湯濱ニ於ル視察」、「小磯村土俗再調査」、「大磯土俗ノ概略」といった見出しが付されており、前半の行動記録に対応しつつ、実際の取材内容を問答形式にまとめたものである。問答の表記はパターン化されているものの、要旨は十分におさえられている。

筆者の阿部氏は、概して考古学的な知識と興味が強かったようで、「四石」、「オモリ石」、「クボミ石」、「ミガキ石」と自ら表現している石の存在を、「石世期」の遺物と絡めて盛んに気にとめている。また、土器が在地や塚（古墳）の描写も多く、現在では既に確認できないものや、これまで記録として表れなかった古墳などが記されていることは本書の大きな魅力となっている(2)。一方で、「土俗」という表現が多用されていることは本書の大きな野にも興味を抱いていたようで、盛んに農漁民からの聞き取り調査をおこなっている。衣食住にかかわる内容はもちろん、漁具や漁法、船などの聞き書きは興味深い。特に「漁夫

ノ酒宴」では、その状況を事細かに観察して描写し、さらには聞き取りによる内容が補充されている点に特筆される。これらもまた現状では聞き取ることでできない事実も少なくない。なかでも「大磯盆踊視察」の記載は最も現れたものである。まず一点めは、聞き取り調査を

して、全体を通しての特徴をいくつかに上げておきたい。まず一点めは、聞き取り調査をした話者の姓名を記していることである。また、たとえ姓名の記録が無くとも、かなり詳細に状況を描写しているため、調査に立ち寄った家の特定さえも可能な部分が見られることに驚かされる。二点めは、筆者自身の調査対象に対して、多くの場合に現地の呼び名を確認していることである。筆者自身の表現と、地元における呼称との書き分けを意識している点が認められる。三点めは、聞き取り調査や実現した様子を、「参考ノ料」とするために、かなり頻繁に図を描いていることである。これらによって、現存している資料との比較が容易となり、結論として十分に信頼のおける記述であることが判断される。まさに民俗誌としてはもちろん、民俗誌としても極めて質の高いものといえるだろう。

ところで、記載されている事象については、既に聞き取り調査や当館収蔵資料との比較を通して應作業を進めており、あらためて本資料の有用性が明らかになりつつある。しかし、本稿ではあくまでも資料紹介が大きな目的であり、また、全文を掲載するだけの紙幅もないため、前半の日記部分を省略し、「學術上取調記事」以降を掲載するにとどまっている。全文の紹介ならびに記述内容についての細かな考察は、別の機会に報告したいと考えている。なお、本文中には一部不適切な表現もあるが、もとより差別にたいして正しい歴史認識を得た中で、差別解消を目指すのであろうことをおことわりしておきたい。最後に、本稿を執筆するにあたり、「大磯旅行記」の利用について、快諾くださいました阿部正功氏、ならびに学習院大史学史料館に対しまして厚く御礼申し上げます。

### 【注】

(1) 加藤正美「大名屋敷跡地の住宅地形成—麻布霞町の場合—」、「江戸東京史」への招待(2)一九九五年、日本放送出版協会

(2) 佐川和裕「大磯町域の『塚』—記録と伝承—」、「十三塚 運動公園建設予定地内における埋蔵文化財発掘調査の記録」大磯町文化財調査報告書第44集、二〇〇一年、大磯町教育委員会

(\*) 当館学芸員 \*\* 当館臨時職員

年 報  
平成 12 年度

◇平成13年3月31日発行

◇編集発行

大磯町郷土資料館

神奈川県中部大磯町西小磯446-1

TEL 0463-61-4700

◇印 刷

今 井 印 刷